

第 20 期 総会 資料

2021年2月19日（金）13:30

オンライン総会（Web会議システム ZOOM 利用）

目 次

1	2020年度 事業報告	1
	第1部 事業概要	1
	1. 本部	1
	2. 委員会	2
	3. 部会	8
	4. 研究会	11
	5. 支部	19
	第2部 会計報告及び会計監査報告	33
2	2021年度 事業計画(案)	38
	1. 本部・計画	38
	2. 委員会・計画	38
	3. 部会・計画	41
	4. 研究会・計画	42
	5. 支部・計画	47
3	2021年度 予算(案)	52



特定非営利活動法人
日本システム監査人協会

1 2020年度 事業報告

第1部 事業概要

1. 本部

1. 1. 全般概要

(1) 会員の状況

- 1) 正会員・個人・・・・・・・・・・・・ 608名
- 2) 正会員・団体・・・・・・・・・・・・ 28社 (合計 **636**正会員/2020年12月末現在)

2020年度は、新型コロナウイルス感染症が人々の生活や企業活動に大きな影響を与えた年となった。当協会も例外でなく、年度前半では定例の月例研究会などを中止せざるを得なかったが、2020年5月には、制約のある中においても感染症対策を工夫しつつ活動を継続する決意として、会長メッセージ「2020年新型コロナウイルス感染症対策としての当協会の取組について」をホームページ等に発信した。この取組における新たなチャレンジとして、理事会をはじめとし各研究会・部会ではオンライン会議を採用した。また、本日月例研究会、西日本支部合同研究会、会員向け活動説明会などをウェビナーによるオンライン開催とした。この結果、全国規模のイベント開催が実現でき、会員サービスの均質化が可能になった1年でもあった。

システム監査基準・システム管理基準が2018年4月に改訂されたことを受け、2019年度来『情報システム監査実践マニュアル』を友好団体であるシステム監査学会、ISACA 東京支部の協力も得て改定作業に着手していたが、2020年6月に第3版として刊行することができた。

また、公認システム監査人認定事業の充実に努め、公認システム監査人認定者の増大、公認システム監査人の活躍の場の拡大などに、従前に引き続き力を入れた。

その結果、個人入会者は31名(2019年度45名、2018年度32名)、団体入会は、0社(2019年度1社、2018年度4社)と入会実績は減少した。会員資格の継続者のうち、2021年の終身会員制度適用者として、65歳以上5名(2019年度4名、2018年度4名)が終身会員として資格を継続され、終身会員総数は累計で33名となった。また、“定年を迎えて”、“システム監査業務から離れたので”などの理由による退会が増えているが、2020年度の退会者は39名(2019年度54名、2018年度52名)となっている。退会者39名のうち、除名者が10名(2019年度16名、2018年度8名)と2019年度よりも除名者を含めた退会者は減少している。なお、会費を完納されて退会される比率が維持されている。一方、団体会員の退会はなかった

(2019年度3社、2018年度4社)。会員規程第3条(会費納入期限)に基づき、年度末(12月末)までの1年間を納入期限としたことが浸透し、会員が計画的に退会を選択されるようになり、会費督促や、経理処理の事務処理負荷軽減に大きく寄与する結果となっている。

2021年1月1日現在、東京都中央区茅場町に本部の事務所を置き、地方会員の組織として北海道・東北・中部・北信越・近畿・中四国・九州に7支部がある。

(2) 理事会の活動状況

理事会は、当協会の活動の原点であり、毎回活動の諸案件について活発に議論し審議・決定された。

月日	審議事項
1/9	・第19期通常総会資料 ・役員総会割分担(一次案)
2/6	・事業報告・計画案 ・総会役割分担 ・会員規程第2条9項に基づく名誉会員について
3/12	・会長の選任について ・副会長の選任について ・事務局長の継続について ・理事役割分担について ・「広告掲載担当」役員の指名について
4/9	・審議事項なし、理事会休止(新型コロナウイルス対策のため)
5/14	・事務局長の継続について ・理事役割分担について
6/11	・審議事項なし
7/9	・「理事会運営規程」の改正について(事務局)
8月	休会
9/10	・審議事項なし

10/8	・審議事項なし
11/12	・ハード・ソフト費用の2020年度予算超過の件（事務局） ・月例研運営委員会の体制変更について（月例研運営委員会・事務局）
12/10	・会費未納の事由による会員除名処分（事務局） ・2020年度会計予算案（会計）

（3）事務局

事務局(斉藤茂雄事務局長)は、入退会に関わる事務処理、会員管理システムの会員データ管理、及び協会全体の事務処理の効率化に取り組んだ。一方2015年6月3日に取得した認定NPO法人の認定有効期限が2020年6月2日であることから、更新申請を2月28日に実施した。新型コロナウイルス対応により、東京都による現地確認は10月15日に延びたが、11月26日付けで「認定書（更新）」を受領することができた。次回更新日の2025年6月2日までの5年間、東京都の認定NPO法人として活動することになる。

会費については、会費納入期限を2月末とし、2015年度以来、3月に未納者への会費督促メールを発信し、6月に督促状を発送している。例年この後の入金フォローとして役員全員が協力して、電話による状況確認に加えて、会費お支払いをお願いする作業を行ってきたが、未納者が減少してきたことから2020年度は中止した。なお、会費請求書には、「会員サイト」へのログインIDを記載し、会員自身が、年会費の支払い状況を確認し、また住所変更等の訂正を行っていただくよう案内している。

また、2019年に引き続き1口3,000円以上のご寄附のお願いを実施し、2020年も100名を超える寄附者からのご協力をいただき、認定NPO法人の更新要件であるパブリック・サポート・テスト基準（広く市民からの支援を受けているかの判断基準）を維持することができた。寄附者が税額控除の適用を受けるための「寄附金受領証明書」を2020年12月の会費請求書発送時に同封した。

事務処理については、事務局、委員会、部会、研究会、支部の担当役員の交替にあわせて、各業務の流れを事務局サイト（一般非公開）にて情報共有するなどの効率化を図った。

[>目次](#)

2. 委員会

2. 1. システム監査活性化委員会

（1）体制

○委員長 : 小野修一会長

○メンバー : 各研究会、部会、委員会、担当の主査および各支部長

（2）活動の概要

2020年度も、システム監査活性化委員会（通称、活性化委員会）として活動を行った。

小野会長を主査に、各研究会、部会、委員会、担当の代表者をメンバーに委員会を編成し、定期的に委員会を開催、活性化につながる施策や会員増強策について組織横断的な検討・意見交換を行うとともに、SAAJの「ビジョン」の実現に繋げる具体的取組を展開する活動を行った。各支部長からは、メールベースでご意見をいただいた。

2020年度に行った主な活動は次の通りであった。

- 1) 各研究会、部会、委員会、担当が行っている活動について、活性化委員会から提案などを出し、意見交換を行った。出された意見や提案は、各研究会等の主査が持ち帰り、各研究会等の活動に生かしている。
- 2) 会員の皆さんに協会および協会活動をよく知っていただき、研究会や部会に参加してもらう機会をすることを目的とした「会員向け活動説明会」を、2020年度も実施した（2020/10/31）。新型コロナウイルス感染症感染防止のために、集合形式ではなくオンライン形式で開催した。初めての試みではあったが、全国から70名近い会員が参加した。アンケートに対して高い満足度の得られたことが分かり、全国に所在する会員とのコミュニケーションツールとしてのオンライン形式での開催の有効性を実感した。

【赤本改定プロジェクト】

（1）体制

○主査 : 松枝憲司 副主査 : 力利則

○メンバー：(編集者) 1部：大石正人、2部：豊田諭、3部：力利則、4部：吉田裕孝、5部：野田正勝
 (執筆者) 齊藤茂雄、桜井由美子、島田裕次、野嶽俊一、原善一郎、松尾正行、山口達也
 情報セキュリティ研、個人情報保護研、事例研、IT アセスメント研、法人部会、近畿支部
 (他団体) システム監査学会、ISACA 東京支部他

(2) 活動の概要

2018年4月のシステム監査基準・管理基準の改訂を受けて、協会が発刊している「情報システム監査実践マニュアル第2版」を改定して6月に第3版として森北出版社より出版した。また赤本出版記念講演会を、10月10日に月例特別研究会として実施した。

(3) 活動実績(全体活動に関するもの)

- 1) 第12回赤本編集者会議：1月23日(木) 18:30~20:30
- 2) 第1版校正原稿提出(2月)
- 3) 第13回赤本編集者会議：2月20日(木) 18:30~20:30
- 4) 第14回赤本編集者会議：4月8日(水) 18:30~20:30
- 5) 第2版校正原稿提出(4月)
- 6) 最終校正原稿提出(4月)
- 7) ダウンロード用資料提出(5月)
- 8) 情報システム監査実践マニュアル第3版出版：6月27日
- 9) 赤本出版記念講演：10月10日(土) 13:30~17:00 機械振興会館+リモート

[> 目次](#)

2. 2. ホームページ運営委員会

(1) 体制

- 委員長：斎藤由紀子
 ○メンバー：委員会・部会・研究会の各主査、支部長

(2) 活動の概要

- 1) 協会のホームページ <https://www.saaj.or.jp/> は、2020年度に以下の部門からの要請で、委託先に合計35回(月平均2.91回、2019年43回平均3.58回、2018年43回平均3.58回、2017年度45回月平均3.75回、2016年度64回平均5.4回)のサイト掲載を依頼した。コロナ禍の影響でイベントの中止等緊急対応が多かったことから、事務局では47回(2019年度28回、2018年度35回、2017年度16回、2016年度9回)の掲載を行った。

2020年	回数	依頼部門(委託先)	事務局作業	
1月	4回	月例、認定、研修、近畿	3回	footer、役員改選、会報
2月	3回	月例、東北、近畿	2回	総会、会報
3月	2回	月例、近畿	4回	総会、PJA、事例、会報
4月	3回	月例、研修、近畿	5回	PMS、PJA、会報、貸借、総会
5月	3回	月例、東北、近畿	2回	コロナウイルス、会報
6月	2回	事例、近畿	6回	PJA3、赤本2、会報
7月	1回	認定	5回	PMS、PJA2、月例、会報
8月	5回	SSL更新、月例、研修、東北、近畿	2回	会報、TOP
9月	2回	東北、近畿	5回	会報、方針、規程2、ITA
10月	5回	活性化、月例、研修2、中部	4回	会報、月例、PJA2
11月	2回	事務局、近畿	5回	会報、月例3、総会
12月	3回	認定、月例、近畿	4回	HP2、月例
合計	35回	SSL、事務局、活性化、月例7、認定4、教育5、事例、東北4、中部、近畿10	47回	Top、Footer、コロナ、方針、貸借、規程4、会報12、改選、総会4、月例6、PJA9、事例、赤本2、ITA、PMS2、

- 2) 事務局サイトでは、以下のコンテンツを公開している。

- ・6ヶ月で構築する「PMSハンドブックV1」様式集(V1購読者限定)
- ・6ヶ月で構築する「PMSハンドブックV2」様式集(V2購読者限定)

- ・「失敗しないシステム開発のためのプロジェクト監査」読者限定サイト
 - ・総会資料 第1期（2002年2月）以降
https://www.saaj.jp/04Kaiin/0302SokaiShiryoy/02sokaiSiryoy.html
 - ・会報 No1号（1988年2月号）以降 https://www.saaj.jp/03Kaiho/0305kaihoIndex.html
 - ・月例研究会 第1回（1988年3月）以降 https://www.saaj.jp/04Kaiin/60SeminerRireki.html
 - ・役員の経費立替支払依頼書等の様式（役員限定）
 - ・事務局業務マニュアル（事務局限定）
- 3) メールアドレス、メーリングリストの運用について
- ・saaj.or.jp ドメインのメーリングリスト：会員の連絡先情報を自動的に反映
 - ・saaj.jp ドメインのメールアドレス：役員の希望者に発行
 - ・saaj.jp ドメインのメーリングリスト：希望する部会、研究会用に設定
- 4) 2020年後半は、コロナ禍の影響で、2020年10月10日の「251回月例研究会（赤本出版記念）」から、ZoomWebinerによるリモート開催を取り入れ、これまでのホームページからの参加申込みから、Peatixによる集客にトライアルした。その後、活動説明会、252回月例研究会、253回月例研究会、CSAForumと経験を積んで、ホームページ案内（広宣）、Peatix案内（申込）、事務局サイト（資料ダウンロード）、ZoomWebiner（リモート参加）、アンケート（受講証明）、会報掲載（報告）までの流れが、スムーズに実施できるようになった。
- 5) プロジェクトマネジメントのシステム監査研究会では、「失敗しないシステム開発のためのプロジェクト監査」の動画をYouTubeにアップし、事務局サイトからリンクできるようにした。今後パワーポイント利用や動画によるコンテンツを充実させていきたい。

[> 目次](#)

2. 3. 推薦制度運営委員会

(1) 体制

- 委員長 : 仲厚吉
- メンバー : 松尾正行 三谷慶一郎

(2) 活動の概要

推薦制度運営委員会（以下推薦委員会）は、CSA 資格を有する者が所属する正会員団体又は CSA 資格を保有する正会員個人のうち「推薦台帳」に登録した者について、1号推薦（外部からの推薦依頼）又は2号推薦（台帳登録者からの自己推薦依頼）を受けてシステム監査人の適任者を推薦している。

(3) 活動状況

2020年度は、1号推薦、2号推薦とも推薦委員会からの推薦はなかったが、行政機関、地方公共団体等より委員等の推薦を依頼される場合や外部団体のシステム監査人募集等に協力する場合があります対応を行った。

[> 目次](#)

2. 4. 認定委員会

(1) 体制

- 委員長 : 舘岡均
- メンバー : 常任委員・副委員長（斉藤茂雄、豊田諭）、委員（理事）

(2) 公認システム監査人、システム監査人補の、認定登録の状況

2020年度の公認システム監査人及びシステム監査人補の新規応募者の認定登録状況は以下のとおりである。

- 1) 公認システム監査人は、春期10名、秋期7名で年度の合計17名
 - 2) システム監査人補は、春期3名、秋期1名で年度の合計4名
- 公認システム監査人とシステム監査人補の年度の合計は21名であった（2019年度は26名）。公認システム監査人は2020年度合計17名であった（2019年度20名、2018年度は11名）。この結果

2020年度末の累計では、公認システム監査人が329名、システム監査人補が69名、合わせて398名となり、累計は微減となっている。

面接審査は、春期はコロナ禍であり例年5月実施を6月にシフトして実施し、秋期は例年通り11月に実施し、東京地区2回、北信越地区1回、中部地区2回、近畿地区1回、九州地区1回で実施した。1組2名で土曜日に実施した面接審査には、地区の支部長、あるいは経験を積んだ面接委員の応援を得た。

(3) 公認システム監査人、システム監査人補の、認定更新の状況

2002年度、2003年度、2005年度、2006年度、2008年度、2011年度、2013年度、2015年度、2017年度に認定登録された公認システム監査人及びシステム監査人補の更新を実施した。公認システム監査人の更新対象者は225名、更新者は204名で、更新率は90.6%であった（2019年度は90.5%）。また、システム監査人補の更新対象者は41名で更新者は32名で、更新率は78.0%であった（2019年度は74.0%）。

特に公認システム監査人の更新率は、2018年度から2020年度まで約90%に高く保持されている。

2014年度まで認定資格更新時の各種書類は郵送にて提出していたが、詳細に検討を重ねて業務手順を改定し、2015年度から電子メールによる提出を実施した結果、更新者にとって郵送料が不要となり、かつ利便性が良くなった。

(4) 公認システム監査人認定制度の特別認定制度改定後のフォローアップ

システム監査技術者試験と関連性のある資格の所有者については、特別認定制度により、一定の教育を受けることなどを条件として同様に認定している。新たな所有資格（情報処理安全確保支援士、米国公認会計士、内部監査人、QMS主任審査員／エキスパート審査員、公認情報セキュリティ監査人／主任監査人）を加えて、特別認定制度を2017年6月8日に改定した。

その結果、2020年度新規認定者（公認システム監査人およびシステム監査人補）合計21名のうち、特別認定制度改定で加えた対象資格保有者は5名（内部監査人5名）であり、制度改定で加えた対象資格保有者の比率は24%（2019年度は31%）である。制度改定の効果は表れている。

[>目次](#)

2. 5. CSA利用推進グループ

(1) 体制

○主査 : 齊藤茂雄

○メンバー : 億谷和彦（3月より）、カ利則、大西智（オブザーバ）

(2) 活動の概要

1) CSA利用推進グループの活動は2006年度から開始した。2020年度も従来の活動を踏襲し、CSAフォーラムの企画・開催を行った。

2) CSAフォーラムは、CSA・ASA認定取得者の相互研鑽、情報共有、フェイスtoフェイスの意見交換の場として開催してきたが、2020年度前半は新型コロナウイルス感染防止対策で開催を自粛した。しかし、その後オンラインセミナー開催体制も整ったことから、第36回CSAフォーラムをオンラインで開催した。オンライン開催はZOOMウェビナーを用い、2部構成とし、あらかじめ録画した演題の放映と講師が質疑応答に応じた。

3) 例年実施している法人部会実施の自治体向けDMでの「CSAを入札条件に入れる依頼文」の送付は、自治体が新型コロナウイルス対応で繁忙と推測し、取りやめた。

(3) 活動の目的

「CSAのプレゼンスを高める。CSAの社会的な評価や価値を高める。CSAの社会的な認知度を上げる。CSAになって良かったと思ってもらえる。CSA認定の付加価値を高める。CSAが社会的に認められ活動がしやすくなる」という活動目的を当初から掲げている。

(4) CSAフォーラム活動

2020年度の開催内容は次表の通りであった。オンライン開催であり、全国のCSA・ASAの方々にご参加いただき、従来に増す55名の参加者を得ることができた。

月日	開催回	テーマ	講師
12/28	第36回 パート1	「NIST SP 800-53 セキュリティ・プライバシー管理策カタログについて」	宮本茂明 氏
	第36回 パート2	「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度（ISMAP：通称イスマップ）について」	山口達也 氏

[> 目次](#)

2. 6. 教育研修委員会

(1) 体制

- 委員長 : 三輪智哉
- 委員 : 中山孝明、戸室佳代子、越野雅晴

(2) 活動の概要

特別認定講習実施機関（以下「講習実施機関」という）に委託している特別認定講習について、講習実施スケジュールの協会ホームページ掲載から、講習実施結果の評価・修了認定・修了証発行までの一連の活動を継続している。なお、講習実施機関は2019年度通り2社。

(3) 特別認定講習の概要

公認システム監査人(Certified Systems Auditor) および「システム監査人補(Associate Systems Auditor)」の認定制度において、システム監査技術者試験と関連性のある資格の所有者については、特別認定制度が定める講習を履修し一定以上の成績を修めることにより、システム監査技術者試験の合格者と同様に取り扱われる。

詳細：公認システム監査人認定制度 (<https://www.saaj.or.jp/csa/index.html>)

(4) 特別認定講習の実施状況

(受講修了者は延べ人数、修了証発行ベース)

講習コース	2020年度実績	受講修了者数	2019年度実績	
	実施場所：実施月		実施回数	修了者数
1) 論文・プレゼンテーションコース（1日コース）	3回 東京3回：3月、8月、9月 大阪0回	4名	4回	7名
2) システム監査に関する知識コース（2日コース）	4回 東京3回：3月、8月、9月 大阪0回	7名	2回	5名
3) 情報システムに関する知識コース（2日コース）	2回 東京2回：2月、8月 大阪0回	2名	2回	3名
計	9回	13名	8回	15名

5) 運営管理状況

- 1) 実施された各講習について、講習実施機関の試験問題・採点要領・採点結果に問題はなく、いずれも修了証発行となった。（なお、講習実施機関では、初回の成績未達者に対して再テストが実施されている）
- 2) 実施回数や受講者数の前年度比は、企業単位の申し込み状況によって変動するが、2020年度は、実施回数は9回となったものの、受講生数は2019年度より2名減となり、一回あたりの受講生数の減少がみられた。

[> 目次](#)

2. 7. 月例研運営委員会

(1) 体制

- 委員長 : 力利則
- 副委員長 : 櫻井俊裕
- メンバー : 柳田正 戸室佳代子 豊田諭 清水恵子 山口達也 福田敏博 竹原豊和
麻生秀明 億谷和彦 細川健一
- アドバイザー : 仲厚吉 三谷慶一郎 木村裕一

(2) 活動の概要

新型コロナウイルス感染症拡大防止の一環として、3月から7月の月例研究会を中止した。この間に、事務局との協力体制のもと、オンライン開催の準備を進め、9月から機械振興会館とオンラインのハイブリッド開催で月例研究会を再開した。オンラインについては、9月は理事限定試行運用、10月は会員限定試行運用と経験を重ね、11月からは非会員を含めたオンライン開催を行った。こうしてハイブリッド開催のノウハウを習得するも、コロナ禍が収束の兆しを見せないこと、コロナ後の働き方が変わることを踏まえ、12月からはオンラインのみの開催に運用を切り替えている。

また、オンラインを採用することで月例研究会の開催を再開することは出来たが、中止となった期間が半年あるため、メンバー全員が当番理事を担当することは出来なかった。オンライン開催を踏まえた活動体制の構築は2021年度の課題である。

(3) 開催報告

回	開催日	2020年 「月例研究会」 開催実績 テーマ/講師	開催形式	参加人数
249	1/21 (火)	クラウドサービスに関する安全性評価制度について 経済産業省 商務情報政策局 情報経済課 課長補佐 関根悠介 氏	機械振興会館	137名
250	9/3 (木)	既存対策を凌駕し続けるサイバー脅威と整備すべき態勢（前もつての身構え） 株式会社サイバーディフェンス研究所 専務理事/上級分析官 名和利男 氏	ハイブリッド	86名
251	10/10 (土)	「情報システム監査実践マニュアル（第3版）」出版記念講演 赤本出版委員会委員長、IT アセスメント研究会主査 松枝憲司 氏 赤本出版委員、IT アセスメント研究会 豊田諭 氏 赤本出版委員、IT アセスメント研究会副主査 力利則 氏 赤本出版委員、システム監査事例研究会 吉田裕孝 氏 赤本出版委員、システム監査事例研究会主査 野田正勝 氏	ハイブリッド	144名
252	11/19 (木)	テレワーク時代におけるシステム監査について 東洋大学 総合情報学部 教授 島田裕次 氏	ハイブリッド	115名
253	12/4 (木)	花王の企業価値向上に向けたチャレンジとJ-SOX アンリツ株式会社社外取締役 青木和義 氏	オンラインのみ	70名

2020年度は、例年の半分の5回しか開催できなかったが、年間415名（2019年度：835名）、平均参加者数は83名（2019年度：84名）と、平均で見ると2019年度同様の結果であった。また、会員以外の方のご参加は各回で差があるものの平均22%であり、2019年度の毎回約20%を上回る結果となった。オンライン参加の範囲が各回で異なるため一概には言えないが、月例研究会への関心が広がっていることが伺える。参加申込に「入会手続き中」と記載のある方もおり、新規会員の募集にも貢献できたことも伺える。

(4) 講師について

講師の方々の所属は、官庁、行政法人1名、民間2名、大学1名、SAAJ5名と、各分野での第一人者の方々に来ていただいた。

(5) 2020年度の取り組み

- 1) ハイブリッド開催、オンライン開催への取り組みを行った。運営マニュアルは今後整備していく。
- 2) 機械振興会館での開催では、領収書を受講証の代わりにお渡ししていたが、オンライン開催では、受講証を発行する仕組みを構築した。この仕組みの中でアンケートを取り、オンライン開催の課題として運用面の改善を行っている。運用面以外のご要望については、今後の開催テーマや講師選定に利用することを検討している。
- 3) システム監査学会、ISACA、日本セキュリティマネジメント学会、経営情報学会等、関連する諸団体に「月例研究会」の案内をお送りしていたが、オンライン申込時にアンケートを取ることで、具体的な参加人数を把握する取り組みを行った。各団体からの参加者が更に増加するよう、各団体へのメール配信のタイミングなども検討していく。
- 4) 理事会終了後に行っていた会合を、別途、日程を調整してZoomウェビナーで行うようにした。話し合う時間を確保するほか、会合の場で、上記2)の検証を行い、対策を立てることが目的である。また、当

番理事が実際にウェビナーを操作し、開催日当日に困らないよう事前に練習をするためでもある。この他、講師の方も含めた事前接続テストを行っている。

- 5) ダウンロード資料は、参加申込をした方のみがダウンロードできるように仕組みを変更した。
- 6) ハイブリッド開催では、講師の許可を得た上で、Zoomウェビナーと会場の様子を編集し各支部に提供した。編集は事務局に依頼してご対応いただき、ファイル形式もオンラインに合わせて変更した。これにより、各支部に機械振興会館での開催時と同様に録画ビデオを提供し、活用していただけたが、Zoomの録画提供を許可いただけない講師もいるので、録画ビデオの提供については今後の検討課題でもある。

[> 目次](#)

3. 部会

3. 1. 会報

(1) 体制

- 主査 : 竹原豊和
- 副主査 : 安部晃生、越野雅晴
- メンバー : 坂本誠、豊田諭、福田敏博、柳田正、山口達也
- 編集支援 : 会長、各副会長、各支部長

(2) 活動の概要

「日本システム監査人協会会報」は、会員やシステム監査人のコミュニケーションの場として、会報部会メンバーで編集し発行している。会報は、電子版、メール版を月次発行し、読者がダウンロードして印刷できるようにしている。

(3) 会報部会の概要

会報は、1988年2月にNo1号が発行された。当時は、隔月発行で紙面にて会員に郵送していたが、会報の利便性を考慮し、2009年6月（No108号）から電子版発行に切り替えている。さらに2017年11月に、紙面で発行した会報を第1号からPDF化し、会報バックナンバーとして、過去に発行された会報をすべて閲覧可能とした。このことにより SAAJ30年の歴史が見えるようになった。

2011年から会報の月次発行を実現するとともに、タイムリーな情報発信ができるように陣容を整え、会報編集委員の思いを込めて、会報の年間テーマを選定して投稿を呼びかけてきた。2020年度の年間テーマは2019年度に引き続き「システム監査人のターニングポイント」とした。システム監査の過去、未来においてターニングポイントとなった「外部環境の変化」、「技術的な変化」、「今後予想されること」を焦点に議論し、お互いの知見や意見を交換することを目的として設定した。より多くの方からより多く投稿いただきたくテーマを設定してきているが、テーマを設定することで自由な投稿を抑制してしまうことも懸念されるので、テーマ以外の投稿も大歓迎である旨を記事の募集時にアナウンスしてきた。

会報は、特定刊行物としてNo1号から国立国会図書館へ納本され、一般の検索、閲覧に供されている。会報の記事には、匿名の「めだか」記事、「記名の投稿」記事、「本部報告」、「支部報告」等がある。「めだか」記事は、匿名投稿者の個人的な意見表明であり SAAJ の見解ではないことをうたっており、誹謗中傷でないかぎり誰でも投稿でき、外部へ思い切った発言を行うことができる。かたや、「記名投稿」記事は、会員番号、氏名、所属部会・研究会、支部をあきらかにすることで、会員やシステム監査人の履歴書に掲載する記録になりえるものとなっている。「本部報告」は、各部会、研究会等の研究成果の発表の場として、また「支部報告」は、各支部での活動報告、定例研究会、合同研究会等の内容の記録ともなっている。

(4) 2020年に発行した会報の内容

会報の編集作業は、8名の編集委員が毎月交替で行っている。

該当月の編集が終了すると次月号編集担当宛に「引継書」を作成し、引き継ぎに漏れがないように取り計らっている。また随時、会長、各副会長、各支部長からのサポートを受けている。2020年1月号（2019年12月25日発行）から2020年12月号（11月25日発行）の間に投稿されたものは以下のとおりである。

1) 巻頭言

毎月、会長及び副会長から持ち回りで投稿していただいている。

- 1月号：小野修一（会長）【2020年の年頭に当たって】
- 2月号：力利則（副会長）【『2020東京オリンピック、パラリンピック』の成功を願って！！】
- 3月号：松枝憲司（副会長）【正解なき時代のアジャイル的経営】
- 4月号：三谷慶一郎（副会長）【新型コロナウイルス対策とデジタル技術】
- 5月号：安部晃生（副会長）【「インフォデミック」の時代 — 新型コロナ対応から】
- 6月号：斉藤茂雄（副会長）【『5月度定例理事会を Web 会議で開催』—— 初の試み】
- 7月号：斎藤由紀子（副会長）【『個人情報保護に関する法律等の一部を改正する法律』公布】
- 8月号：舘岡均（副会長）【COVID-19 禍での当協会および CSA/ASA への期待】
- 9月号：力利則（副会長）【コロナ禍の問題への S A A J としての取り組み】
- 10月号：松枝憲司（副会長）【『デジタル庁』の設置】
- 11月号：三谷慶一郎（副会長）【デジタルガバナンスコードの意義】
- 12月号：安部晃生（副会長）【月例研究会の新たな取組みに期待】

2) 投稿記事

編集委員	【めだか】(めだかネーム)	記名投稿
No.226 2020/1月号 竹原豊和	【システム監査人のターニングポイント - Society5.0 を考える】 (空心菜)	【主要な事業課題と望まれる監査を考える】 会員番号 2725 藤田博史 【コラム】 AI 時代に負けないために、システム監査人はどうあるべきか？ (1) 会員番号 1644 田淵隆明
No.227 2020/2月号 豊田諭	【システム監査人のターニングポイント - イノベーションを考える】 (空心菜)	【エッセイ】 曾根崎心中 会員番号 0707 神尾博 【コラム】 AI 時代に負けないために、システム監査人はどうあるべきか？ (2) 会員番号 1644 田淵隆明
No.228 2020/3月号 福田敏博	【システム監査人のターニングポイント - サービスとコントロールを考える】 (空心菜)	【書評 『ひとり情シス「セキュリティ寺」へ駆け込む！』】 会員番号 2574 竹原豊和 【コラム】 AI 時代に負けないために、システム監査人はどうあるべきか？ (3) 会員番号 1644 田淵隆明
No.229 2020/4月号 柳田正	【システム監査人のターニングポイント - 2045 年を考える】 (空心菜)	【時事論評】 パラダイムシフト時代の悪夢と希望 -前編- 会員番号 0707 神尾博 【コラム】 AI 時代に負けないために、システム監査人はどうあるべきか？ (4) 会員番号 1644 田淵隆明 【総会特集】
No.230 2020/5月号 山口達也	【システム監査人のターニングポイント - 幽と顕を考える】 (空心菜) 【新型コロナウイルスへの公共図書館の対応から見た事業継続計画の重要性】 (拡張子)	【時事論評】 パラダイムシフト時代の悪夢と希望 -後編- 会員番号 0707 神尾博 【コラム】 AI 時代に負けないために、システム監査人はどうあるべきか？ (5) 会員番号 1644 田淵隆明
No.231 2020/6月号 安部晃生	【システム監査人のターニングポイント - 普及してきた Web 会議】 (やじろべえ)	【エッセイ】 白蔵主 会員番号 0707 神尾博 【コラム】 AI 時代に負けないために、システム監査人はどうあるべきか？ (6) 会員番号 1644 田淵隆明
No.232 2020/7月号 越野雅晴	【システム監査人のターニングポイント - デジタル貿易を考える】 (空心菜)	コラム 【プロジェクトのリスクとシステム監査】 会員番号 0917 森 伸之 【時事論評】 RPA 導入裏マニュアル 会員番号 0707 神尾博 【コラム】 AI 時代に負けないために、システム監査人はどうあるべきか？ (7) 会員番号 1644 田淵隆明

No.233 2020/8月号 坂本誠	【システム監査人のターニングポイント -在宅勤務を考える】 (パンチョ)	【エッセイ】牡丹灯籠 会員番号 0707 神尾博 【コラム】AI時代に負けないために、システム監査人は どうあるべきか？(8) 会員番号 1644 田淵隆明
No.234 2020/9月号 竹原豊和	【システム監査人のターニングポイント -歴史を読み直す】 (空心菜)	【コラム】AI時代に負けないために、システム監査人は どうあるべきか？(9) 会員番号 1644 田淵隆明
No.235 2020/10月号 豊田諭	【システム監査人のターニングポイント -歴史と地理を考える】 (空心菜)	【エッセイ】特定外来生物 会員番号 2089 阪口博一 【時事論評】パラダイムシフト時代の悪夢と希望 ～テレ ワーク特別編～ 会員番号 0707 神尾博 【コラム】AI時代に負けないために、システム監査人は どうあるべきか？(10) 会員番号 1644 田淵隆明
No.236 2020/11月号 福田敏博	【システム監査人のターニングポイント -ファクトフルネスを考える】 (空心菜)	【コラム】AI時代に負けないために、システム監査人は どうあるべきか？(11) 会員番号 1644 田淵隆明
No.237 2020/12月号 柳田正	【システム監査人のターニングポイント -UTMを考える】 (空心菜)	【エッセイ】陰陽師 ～第2章～ 会員番号 0707 神尾博 【コラム】AI時代に負けないために、システム監査人は どうあるべきか？(12) 会員番号 1644 田淵隆明

3) 「本部報告」と「支部報告」

【本部報告】(会報掲載順で、報告のあった部会・研究会等)。

- ・月例研究会 : 6件
- ・活性化委員会 : 1件
- ・CSA利用推進グループ : 0件
- ・法人部会 : 2件
- ・ITアセスメント研 : 1件
- ・個人情報保護監査研究会 : 12件
- ・プロジェクト監査研究会 : 2件

【支部報告】(北から南の順で、報告のあった支部)

- ・北海道支部 : 5件
- ・北信越支部 : 4件
- ・近畿支部 : 4件
- ・西日本支部合同研究会 : 0件

(5) 2020年の会報アワード

会報アワードは編集委員の選考によって下記から選定し、通常総会において発表する。

「めだか」「記名投稿記事」「本部報告」より各1件、「支部報告」より3件を選出する予定である。

(6) 2020年の投稿論文

該当なし。

なお、「論文」は、現状、論文査読の基準や体制が十分でなく、投稿があった場合、適切な対応がとれない可能性が高いことから、当面募集を中止することを2019年9月度理事会で決定し、HPで周知した。

[> 目次](#)

3. 2. 法人部会

(1) 体制

○主査 : 山口達也

○主たる活動メンバー : 小野修一、齊木孔二、齊藤茂雄、真鍋直緒、矢野一男、佐々野未知

(2) 法人部会活動の目的

法人部会は、システム監査を業とする企業、およびシステム監査を実施し情報環境の健全化を図ろうとする企業が、協力して活動することによって、システム監査の普及・啓発を図ることを活動の目的としている。またこのような活動を通して会員企業の事業の発展に寄与することを目的としている。

(3) 法人正会員 28社 (2020年末現在)

- 1) 入会 : 0社
- 2) 退会 : 0社

(4) 活動内容

本年度はコロナ感染防止対応のため、多くの活動に制約を受けることとなったが、この状況を踏まえた新しい活動スタイルの検討・試行・実施を推進し、2021年度からの本格的な活動再開の目途を立てることができた。

- 1) 定例会部会を、原則毎月第2火曜日 (除く2月、8月) に開催することとし、計8回開催した。
2020年 : 1/14、5/12、6/9、7/14、10/13、11/10、12/18 2020年 : 1/12
また臨時部会を9/24に計1回開催した。
- 2) コロナ感染防止対応として、定例会部会のオンライン開催を検討・試行し、Zoomを利用した第1回のオンライン定例会部会を1/12に開催した。
- 3) 「関東地区活動説明会」にて法人部会の紹介を行った。
- 4) 会報における法人会員紹介記事を再開し、2020年1月号、3月号に紹介記事を掲載した。
- 5) 定例会部会にて、会員同士のシステム監査の普及・ビジネス化についての情報交換を行った。

[>目次](#)

4. 研究会

4. 1. システム監査事例研究会

(1) 体制

- 主査 : 野田正勝
- メンバー : 15名 (2020年12月現在)

(2) 活動の概要

1) 事例研究会定例会

- ・開催日 : 原則毎月第一水曜日 19:00~20:30 (年度後半は第一火曜 20:00~22:00)
- ・開催場所 SAAJ協会事務所 (茅場町) (年度後半はオンライン)
- ・内容 : 11回開催 延べ出席者数 33名

	開催月日	参加人数	内容
1	1月8日	1名	中止 (2019年度のまとめと2020年度の活動方針)
2	2月5日	2名	赤本改定の状況について、今年度の活動方針
3	3月	-	中止
4	4月	-	中止
5	5月	-	中止
6	6月	-	中止
7	7月	-	中止
8	8月	-	中止
9	9月2日	3名	システム監査実務セミナー前半の振り返り
10	10月6日	9名	システム監査普及サービス内容検討、システム監査実務セミナー振り返り
11	11月3日	9名	システム監査普及サービス内容検討、システム監査実務セミナー事後課題状況
12	12月1日	9名	システム監査普及サービス内容検討、システム監査実務セミナー事後課題状況

2) システム監査普及サービス

- ・2020年度は3社より照会があり、1社の受注をした。
- ・受注した1社 (k社) については、7月より事前の意向確認や提案を行い9月上旬に契約を締結しサービスを開始した。監査チームは9名で組成し、年末に監査報告書ドラフト版を完成した。

- ・教材化については、今回受注したk社の事例をもとに準備を進めている。2021年度本格的に作業を行う。

3) システム監査実務・実践セミナー

- ・2020年度は実務セミナー4日間コースを1回開催した。実務セミナー1回は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止した。同様の理由で、実践セミナー2日間コース2回分は開催を見送った。1996年から実践・実務セミナーは通算69回の開催実績（中止含む）となった。
- ・実務セミナー4日間コースは、春の開催が中止となったこともあり、受講者11名と近年では最大規模の開催となった。また、新型コロナウイルス完成症対策としてパーティションの設置などを行っての実施となった。

	通算	2020年開催日	参加人数	内容
1	第68回	3/7・8、 3/21・22 延期し5/30・31 6/13・14	中止	第35回実務セミナー 土日帰り4日間コース 場所：東京市ヶ谷 市ヶ谷健保会館
2	第69回	8/29・30 9/12・13	受講者11名、 講師3名	第36回実務セミナー 土日帰り4日間コース 場所：東京市ヶ谷 市ヶ谷健保会館

4) 事例に学ぶ課題解決セミナー

- ・年3回の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり開催ができなかった。

	通算	2020年開催日	参加人数	内容
		開催なし		

[> 目次](#)

4. 2. 情報セキュリティ監査研究会

(1) 体制

- 主査 : 舘岡均
- メンバー : 斉藤茂雄、大西智、豊田諭、村上進司、福田敏博、山口達也、竹原豊和、麻生秀明、永井徳人、佐藤雅英（東北支部）、佐々木訓（東北支部）
- オブザーバ : 仲厚吉、櫻井俊裕、柳田正、畑野元、中山孝明、他

(2) 活動の概要

2020年度は新メンバーを加え、2019年度を継承して活動を進めた。

1) 活動の進め方

- ・ITにおいては、専門技術の高度化ならびに社会における活用範囲の広がりは進展しているが、セキュリティ事故やサイバー攻撃による大規模な被害が発生している。また、コロナ禍の新たな被害の発生がある。この状況下で、IT、セキュリティに係る研究テーマの対象範囲を広くし、動向調査して、俯瞰的に捉え、課題等を整理して、情報セキュリティ監査に役立てる。
 - 各メンバーが動向調査、トピックス、現在あるいは今後着目する調査／研究内容、などを持ち寄り、ITおよびセキュリティについて現状および動向を俯瞰的に把握する。
 - 課題等を整理して、各メンバーの得意分野、興味を持つ「個別の研究テーマ」を研究する。
 - 各メンバーがお互いの考え方を尊重することをベースとするコミュニケーションを図り、全員参加型の活動を目指す。
- ・さらには、次の内容等を考慮して活動を進めた。
 - 各業界、諸団体、専門分野等のそれぞれをセグメンテーションし、メンバーが分担して調査する。
 - 必要に応じて、知見者（他団体、SAAJ会員など）にご参加頂き活動レベルの向上を図る。
 - CSAフォーラムおよび他の研究会との連携を図る。
- ・2020年度の「個別の研究テーマ」は、「情報セキュリティ関連の基準、ガイドライン等の発行、改定の動向調査」であり、主要なテーマは、「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度（ISMAP：通称イスマップ）について」、「情報セキュリティ白書2020」、「サイバーセキュリティ2020（年度報告、計画）」、「政府情報システムにおけるゼロトラスト適用に向けた考え方」、「自治体情報セ

キュリティ対策の見直しについて」、さらに「サイバーセキュリティ関係法令 Q&A ハンドブック」、
「Emotet ウイルス について」等であった。

- ・「(2020年度)関東地区主催会員向け SAAJ 活動説明会」(2020年10月31日開催)にて、「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度 (ISMAP: 通称イスマップ) について」を報告した(山口達也研究員)。

2) 定例研究会

- ・定例研究会は月1回(平日)18:30~20:30に開催した。1月はSAAJ協会事務所で実施したが、コロナ禍のため、2月~5月はメール会議、6月~12月はSAAJ協会事務所でのリアル会議+Web会議、にて実施した。

3) 2020年度の定例研究会活動実績

月日	開催回	テーマ
1/30	第1回	<2020年度活動方針> -2020年度活動方針、計画、役割/担当、活動スケジュール概略、etcを検討 <トピックス> -「AI・データの利用に関する契約ガイドライン 1.1版」(経済産業省、2019年12月) <個別の研究テーマ> -「標的型攻撃ランサムウェア「Ryuk」の内部構造」
2/27 ~ 3/3	第2回 メール会議	<トピックス> -「クラウドサービスの安全性評価に関する検討会取り纏め」 (経済産業省、2020年1月30日) -「情報セキュリティ10大脅威 2020」(IPA、2020年2月27日) -「Emotet」- 新型コロナウイルスを題材とした攻撃メールの例」(IPA)
3/26 ~ 3/30	第3回 メール会議	<トピックス> -「令和元年サイバー空間をめぐる脅威の情勢等について」(警察庁2020年3月5日) <個別の研究テーマ> -「政府情報システムのセキュリティ評価制度における各種基準(案)」 (内閣官房/総務省/経済産業省、2020年3月5日) 意見募集についての検討
4/21 ~ 4/23	第4回 メール会議	<トピックス> -「情報セキュリティ監査企業台帳制度の廃止」(経済産業省、2020年3月31日) -「アジャイル開発版情報システム・モデル取引・契約書」(IPA、2020年3月31日) <個別の研究テーマ> -「サイバーセキュリティ関係法令 Q&A ハンドブック」(NISC、2020年3月6日)
5/26 ~ 5/28	第5回 メール会議	<トピックス> -「テレワーク時における秘密情報管理のポイント」(経済産業省、2020年5月7日) <個別の研究テーマ、考察>等々 -「アフターコロナの情報セキュリティを考える」
6/24	第6回 リアル+ Web会議	<トピックス> -「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度 (ISMAP) について」 (内閣官房・総務省・経済産業省、2020年6月3日) -「産業界のサイバーセキュリティ状況と今後の取組みの方向性の報告書」 (経済産業省、2020年6月12日) -「無線LANセキュリティガイドライン」改訂 (総務省、2020年5月29日) -「2019年度 国内情報セキュリティ市場調査報告書」(JNSA、2020年6月16日) -「システム監査企業台帳」申告について (経済産業省、2020年6月1日)
7/21	第7回 リアル+ Web会議	<トピックス> -「船舶におけるサイバーセキュリティデザインガイドライン(第2版)」 (日本海事協会、2020年7月6日) -「Web会議サービス使用する際のセキュリティ注意事項」(IPA、2020年7月14日) <個別の研究テーマ、考察>等々 -「自治体情報セキュリティ対策の見直しについて」(総務省、2020年5月22日) -「新型コロナウイルス感染症と内部監査 2020年以降の ニューノーマルへの準備」 (デボラ・F・クレッチマー、CIA)
8/25	第8回 リアル+ Web会議	<トピックス> -「情報処理安全確保支援士会 (JP-RISSA)」 -----任意団体から一般社団法人に移行(設立:2020年4月1日付) -「2020年版 情報通信白書」(総務省、2020年8月)

9/30	第9回 リアル+ Web会議	<p><トピックス></p> <ul style="list-style-type: none"> - 「Emotet」ウイルス について - 「資金移動業者の決済サービスを通じた銀行口座からの 不正出金に関する対応」 - 「情報セキュリティ白書 2020」(IPA、2020年8月) <p><個別の研究テーマ、考察 等々></p> <ul style="list-style-type: none"> - 「ISO/IEC 27000 ファミリーの更新」
10/27	第10回 リアル+ Web会議	<p><トピックス></p> <ul style="list-style-type: none"> - 「東証取引停止(2020年10月1日)」について - 「サイバーセキュリティ 2020」(NISC、2020年7月) - 「NICT に届いた Emotet への感染を狙ったメール (2020年7月~9月)」 <p><活動報告></p> <ul style="list-style-type: none"> - 「(2020年度)関東地区主催会員向け SAAJ 活動説明会」(2020年10月31日開催)にて、「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度 (ISMAP: 通称イスマップ) について」を報告。(山口達也研究員)
11/25	第11回 リアル+ Web会議	<p><トピックス></p> <ul style="list-style-type: none"> - 「IoT セキュリティ・セーフティ・フレームワーク」(経済産業省、2020年11月) - 「政府情報システムにおけるゼロトラスト適用に向けた考え方」 (政府 CIO 補佐官等ディスカッションペーパー、2020年6月)
12/22	第12回 リアル+ Web会議	<p><2020年度活動まとめ、2021年度活動方針></p> <ul style="list-style-type: none"> - 「2020年度研究会の活動まとめ、2021年度研究会活動の方針についての検討 <p><トピックス></p> <ul style="list-style-type: none"> - 「地方公共団体の情報セキュリティポリシーと情報セキュリティ監査のガイドライン」改訂案 (総務省、2020年12月9日) <p><個別の研究テーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> - 「ランサムウェアの被害と対策について」(2020年12月9日) - 「Peatix への不正アクセス事象に関する調査結果の報告と今後の対応」 (Peatix、2020年12月9日)

[>目次](#)

4. 3. ITアセスメント研究会

(1) 体制

○主査 : 松枝憲司

○メンバー : 小野修一、桜井由美子、清水恵子、力利則、豊田諭、仲厚吉、成田和弘、野嶽俊一、原善一郎、松尾正行

(2) 活動の概要

ITサービスの提供者と利用者双方における適切な管理を維持・向上させる活動を、ITアセスメントとしてとらえて、それに必要な活動領域に関する研究を行うことを目的に、新たにメンバーを募集して2016年10月に従来の「システム監査基準研究会」から「ITアセスメント研究会」に衣替えし活動している。

(3) 研究項目

1) ITガバナンスに関連する事項

ISO38503 (Assessment of the governance of IT) のISO化の支援

- ・ ISO38503 の DIS (Draft International Standard) 案の作成のため、Web会議により検討を進め、11/30にConvenerに原案を提出した。今後投票にかかる予定(松尾)
- ・ 6月と11月に予定していた国際会議はコロナ禍により集合形式の会議は中止となった。

ISO38500 見直しプロジェクトの支援

- ・ ISOSC40においてISO38500 (ITガバナンス) の見直しプロジェクトが発足し、日本においても検討メンバーとして参画した。本研究会においても研究テーマとして支援した。

2) 新システム監査基準・管理基準の改訂、活用等

- ・ 赤本改定プロジェクト(別途報告)では「情報システム監査実践マニュアル第3版」の改定作業を取りまとめ出版した。
- ・ システム監査・管理基準連絡会議(基準改訂に参画した団体を中心に基準の活用を目的に設けた連絡会議であり経済産業省からもオブザーバとして参加している)が6回(1回/2ヶ月)開催され、SAAJとして参加した。(力・松枝)

(4) 研究会の開催

- ・テーマ「IT ガバナンスのアセスメント」を中心に1月より9回研究会を開催した。
- ・コロナ禍により4～6月の間は休止し、7月以降はZOOMにより開催した。

[>目次](#)

4. 4. 個人情報保護監査研究会

(1) 体制

○主査 : 斎藤由紀子

○メンバー : 岡田和也、五味巻二、齊藤茂雄、坂本誠、柴田幸一、田口喜久、仲厚吉、永井孝一、成田佳應、林昭夫、道下健二、村上進司、吉谷尚雄

(2) 活動の概要

個人情報保護監査研究会(斎藤由紀子主査)は、2019年7月20日に「個人情報保護マネジメントシステム実施ハンドブック以下「PMS 実施ハンドブックV2」を同文館出版社より発刊したが、法令・規範の改定やテレワーク等社会状況の変化にあわせて、PMS 様式集ダウンロードサイトを随時更新し、新規Pマーク取得事業者だけでなく、更新申請事業者、Pマークコンサルタントの方にも活用いただいている。

2020年度の定例会では、「個人情報保護法(保護法2020)」の研究会活動を中心に、海外の個人情報保護の動向についても情報収集し、会報1月号からメンバー持ち回りで「個人情報保護法いわゆる3年ごと見直し制度改正大綱」を5回連載。また7月号から「個人情報保護法2020」の改正内容を同様に7回連載し、各メンバーの法令や規範の理解を図った。

3月13日に成立した「新型コロナウイルス対策の特別措置法」後の定例会でZoomによるリモート会議を初開催し、その後会議室とリモートを併催していたが、コロナ禍第三波のため、11月以降はリモートのみで開催している。

なお、6か月で構築する「個人情報保護マネジメントシステム実施ハンドブックV1」(2014年12月10日発刊)のPMS 様式集ダウンロードサイトについては、引き続きV1読者向けに公開継続している。

(3) 2020年の活動状況(定例研究会等開催実績)

2020年	開催回	テーマ
1/15	第1回	・「GDPRの地理的適用範囲(第3条)に関するガイドライン」の仮日本語訳確認 ・「個人情報保護法いわゆる3年ごと見直し 制度改正大綱・骨子」会報掲載(斎藤) ・リクナビ問題、データ利用企業への行政指導
2/19	第2回	・「情報システム監査実践マニュアル(赤本)第3版」への出稿(斎藤) ・「個人情報保護法いわゆる3年ごと見直し 制度改正大綱第1・2章」会報(斎藤)
3/18	第3回 Zoom +集合	・リモート会議を初開催 ・「個人情報保護法いわゆる3年ごと見直し 制度改正大綱第3章1節～」会報(斎藤) ・ISO/IEC29134のJIS策定について(坂本) ・1788の都道府県条例の統合化計画と、自治体のPMS研究(齊藤) ・3/1「PMS実施ハンドブックV2」ダウンロードサイト更新
4/15	第4回 Zoom +集合	・「個人情報保護法いわゆる3年ごと見直し 制度改正大綱第3章4節」会報(永井) ・「PMS実施ハンドブックV2」正誤表作成 ・「保護法2020」(案)の条項研究を開始
5/20	第5回 Zoom +集合	・「情報システム監査実践マニュアル(赤本)第3版」最終校提出(斎藤) ・プライバシー保護の国際規格ISO/IEC27701(吉谷) ・2020年1月米カリフォルニア州消費者プライバシー法施行との関係(村上) ・5/1「PMS実施ハンドブックV2」ダウンロードサイト更新
6/17	第6回 Zoom +集合	・6/12「個人情報保護法2020」公布 ・「個人情報保護法2020の改正内容 第1章～第3章」会報連載開始(斎藤) ・プライバシー保護の国際規格ISO/IEC27701(PIMS)(吉谷) ・1788の都道府県条例(広域連合を含め2000個問題)(永井) ・中華人民共和国のサイバーセキュリティ法(CS法)(村上) ・6/1「PMS実施ハンドブックV2」ダウンロードサイト更新
7/17	第7回 Zoom +集合	・「個人情報保護法2020の改正内容 第4章第16条の2～」会報投稿(永井) ・保護法2020のロードマップ(基本方針、施行令、施行規則、ガイドライン) ・eプライバシー指令(2009年改正)について

8/19	第 8 回 Zoom +集合	<ul style="list-style-type: none"> ・「個人情報保護法 2020 の改正内容 第 26 条の 2 (新設) ～」会報投稿 (永井) ・リモート審査の現状 (五味) ・ISMS に PMS 審査アドオン事例 (田口) ・リスク分析表手法の見直し (坂本) ・8/1 「PMS 実施ハンドブック V2」ダウンロードサイト更新
9/16	第 9 回 Zoom +集合	<ul style="list-style-type: none"> ・「個人情報保護法 2020 の改正内容 第 27 条～」会報投稿 (林) ・9/1 「個人情報保護ガイドライン (通則編)」改定 (コロナ対策) ・「プライバシーガバナンスガイドブック ver1.0」(村上) ・米国におけるプライバシー保護法制の動き (村上) ・新型コロナウイルス感染症をめぐる法的問題 (齊藤) ・9/1 「PMS 実施ハンドブック V2」ダウンロードサイト更新
10/21	第 10 回 Zoom +集合	<ul style="list-style-type: none"> ・「個人情報保護法 2020 の改正内容 第四章 第二節(仮名加工情報)」会報投稿 (齊藤) ・「個人情報保護法の見直しに向けた中間整理案」(保護法 2021) ・10/1 「個人情報保護法施行規則」改定 (個人識別符号) ・10/1 「個人情報保護ガイドライン (通則編)」改定 (個人識別符号) ・ISMS に JISQ15001 をアドオンして審査 (田口) ・10/1 「PMS 実施ハンドブック V2」ダウンロードサイト更新
11/18	第 11 回 Zoom	<ul style="list-style-type: none"> ・「個人情報保護法 2020 の改正内容 第四章 第四節(監督)」会報投稿 (道下) ・プライバシーマーク審査基準/審査方式について (五味) ・法令研究のために書籍購入 ・2020 年度反省点と、2021 年度に向けて
12/16	第 12 回 Zoom	<ul style="list-style-type: none"> ・「個人情報保護法 2020 の改正内容 第四章 第六節～第七章(罰則)」会報投稿 (村上) ・「PMS 実施ハンドブック V2」増刷正誤表を出版社に提出 ・12/1 「PMS 実施ハンドブック V2」ダウンロードサイト更新

[> 目次](#)

4. 5. プロジェクト監査研究会

(1) 体制 : 17 名 (本部 12 名、支部 5 名)

○主査 : 原田憲幸 (理事)

○副主査 : 細川健一 (理事)

○メンバー : [本部] 戸室佳代子 (理事)、結城健一、片山邦彦、森内正美、園田博、田村修、大野勇進、藤田博史、佐藤清隆

[近畿支部] 杉谷博史

[中部支部] 加藤智康、原善一郎、栗山孝祐

[北信越支部] 梶川明美、他 (希望者ホームページで募集中)

○成功するプロジェクト分科会 :

[リーダー] 細川健一 (理事)、[サブリーダー] 大野勇進、

戸室佳代子 (理事)、藤田博史、佐藤清隆、片山邦彦、原田憲幸 (理事)、他 (希望者)

○ODX(Digital Transformation)分科会 :

[リーダー] 園田博、

森内正美、大野勇進、藤田博史、細川健一 (理事)、他 (希望者)

○中部北信越支部分科会 :

[リーダー] 加藤智康

安井秀樹[中部支部長]、原善一郎[中部]、栗山孝祐[中部]、梶川明美[北信越]、他 (希望者)

(2) 活動の概要

1) テーマ : 「システム開発を成功させるプロジェクト監査」

2) 目的 : 「プロジェクトの成功を助けるプロジェクト監査」のとりまとめ
「監査の現場で直ぐに役立つツールと実践ポイント」の提供

3) 活動状況 :

3-1) 「失敗しないシステム開発のためのプロジェクト監査」の出版 (2020 年 7 月)

2018 年からの 2 年間の議論の成果をまとめ、研究会の 2 冊目の本を同文館から出版した。

また、読者に「監査項目表」105項目をEXCEL形式でダウンロード提供するため、SAAJホームページにダウンロードサイトを開設した。

(本の目次)

序章	トラブル事例、プロジェクト監査の必要性
第1章	プロジェクト監査とは
第2章	監査実施プロセス
第3章	企画・計画のプロジェクト監査
第4章	開発の監査(1) 外部設計
第5章	開発の監査(2) 実装設計～結合テスト
第6章	開発の監査(3) 総合テスト
第7章	サービス開始のプロジェクト監査
第8章	プロジェクトマネジメントの監査
付録	「監査項目表」(ダウンロード提供)

(全体会合)

回	開催日	概要
第21回	1月17日(金)	・プロジェクト監査本の最終原稿確認 ・本の表題、副題、帯、キャッチフレーズの調整 ・SAAJ 総会資料確認
	2月～7月	コロナのため開催せず、メールで意見交換

3-2) 7月以降の研究会活動

プロジェクト監査本の出版後、メンバーを追加し、全体会議の他に3つの分科会を編成して、ZOOMリモート会議での活動を再開した。

(a)全体会議 (ZOOM リモート会議)

メンバー相互での事例・体験等の発表と意見交換で、プロジェクトマネジメントと監査の知見を高めること、「プロジェクト監査」の普及、出版本の拡販を目的として活動を開始した。

回	開催日	概要
第1回	7月17日(金)	・今後の進め方
第2回	8月28日(金)	・研究会テーマ、分科会活動の進め方
第3回	9月25日(金)	・分科会の編成、リーダー
第4回	10月23日(金)	テーマ「開発未経験部門による内製開発」(発表者：原田憲幸)
第5回	11月27日(金)	テーマ「アジャイル開発と監査」(発表者：原田憲幸)
第6回	12月18日(金)	テーマ「Software Engineering テスト設計」(発表者：戸室佳代子)

(b)分科会① 成功するプロジェクト分科会 [リーダー] 細川健一 (理事)、[サブリーダー] 大野勇進

「プロジェクトを成功させる工夫」をテーマに、成功事例・失敗事例等を発表し、成功させる鍵について討議する分科会を開始した。

回	開催日	概要 (ZOOM リモート会議)
第0回	10月12日(月)	・分科会の進め方
第1回	11月13日(金)	事例「NW機器故障による大規模システム障害」(発表者：原田憲幸)
第2回	12月6日(日)	事例「給与システムCOBOL業務アプリのリバース更改」(発表者：大野勇進)

(c)分科会② DX (Digital Transformation) 分科会 [リーダー] 園田博

「DXの概念、DXの手法・技術・目的、DXの進展と監査」について討議する分科会を開始した。

回	開催日	概要 (ZOOM リモート会議)
第1回	10月26日(月)	・DX分科会の進め方、DXの概念
第2回	11月26日(木)	AIアプリケーション社プレゼン・Q&A
第3回	12月14日(月)	DXの概念まとめ、DXの推進・実行プラン検討、LWコミュニケーション確認

(d)分科会③ 中部北信越支部分科会 [リーダー] 加藤智康

「リモートによるプロジェクト監査」をテーマに分科会を開始した。

回	開催日	概要 (ZOOM リモート会議)
第1回	10月18日(日)	・分科会の進め方、活動計画
第2回	11月15日(日)	事例「ISO9001 リモートによる内部監査」(発表者：栗山孝祐)
第3回	12月13日(日)	事例「会計ソフト導入の際の監査の観点について」(発表者：原善一郎)

(e)プロジェクト監査の普及に関する講演

開催日	概要 (ZOOM リモート講演)
9月11日(金)	PMシンポジウム 2020 (日本プロジェクトマネジメント協会[PMAJ]主催) 2日目 B-1 「失敗しないシステム開発のためのプロジェクト監査」(講演者: 原田憲幸)
10月31日(土)	SAAJ 関東地区会員向け活動説明会 セミナー講演 「プロジェクト監査について」(講演者: 原田憲幸)
12月5日(土)	ITC 多摩協議会 勉強会 「業務プロセスの見える化とプロジェクト監査」(講演者: 原田憲幸)

(f)プロジェクト監査に関する動画配信・リモートセミナー

公開日	内容 (ZOOM リモートセミナー)
9月13日(日)	ITC-PRO 東京様での動画配信 (10分×7回シリーズ) 内容: 下記
10月25日(日)	SAAJ ホームページでのオンラインセミナー (10分×7回シリーズ) 第1回 失敗しないシステム開発原田憲幸 第2回 プロジェクト監査とは.....結城健一 第3回 企画・計画のプロジェクトマネジメントと監査.....森内正美 第4回 設計・開発のプロジェクトマネジメントと監査.....大野勇進 第5回 サービス開始準備・効果検証のプロジェクトマネジメントと監査.....森内正美 第6回 プロジェクトマネジメントの監査.....大野勇進 第7回 中小企業の視点からのプロジェクトマネジメントと監査.....結城健一

[>目次](#)

5. 支部

5. 1. 北海道支部

5. 1. 1. 支部体制

- 支部長 : 宮崎 雅年
- 副支部長 : 小林 弘幸
- 会計 : 谷口 泰正
- 研究会 : 伊藤 淳一、宮崎 雅年 (兼務)
- 広報 : 曾根本 育裕
- 監事 : 大館 広之

5. 1. 2. 第19回支部総会実施

(1) 日時 : 2020年12月4日(金) 18:15~18:30 参加者 : 4名、委任4名

(2) 内容 :

- 1) 2020年度活動報告、2021年度活動計画
- 2) 2020年度会計報告および2021年度会計予算について
- 3) 2021年度役員選出、2021年度研究会計画

5. 1. 3. 定例研究会・勉強会実施

(1) 1月研究会 参加者 : 3名

- 1) 日 時 : 2020年1月16日(木) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「2020年オリンピック・パラリンピックのサイバーセキュリティ」
 - ・研究発表とディスカッション
 - ・発表者 : 宮崎 雅年 氏

(2) 2月研究会 参加者 : 4名

- 1) 日 時 : 2019年2月14日(金) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「2025年の崖問題とDX推進に向けた政策展開」
 - ・第247回月例研究会のビデオ上映とディスカッション

(3) 3月研究会

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止

(4) 4月研究会

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止

(5) 5月研究会

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止

(6) 6月研究会 参加者 : 4名

- 1) 日 時 : 2020年6月12日(金) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「クラウドサービスに関する安全性評価制度について」
 - ・第249回月例研究会のビデオ上映とディスカッション

(7) 7月研究会 参加者 : 4名

- 1) 日 時 : 2020年7月17日(金) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「軍事作戦計画の立案過程を システム監査人の観点で見てみる
~システム監査人の教養講座」
 - ・研究発表とディスカッション
 - ・発表者 : 谷口 浩章 氏

(8) 8月研究会 参加者 : 4名

- 1) 日時 : 2020年8月27日(金) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「コロナ禍における特別定額給付金の申請に対する考察について」
 - ・研究発表とディスカッション
 - ・発表者 : 宮崎 雅年 氏

(9) 9月研究会 参加者 : 3名

- 1) 日 時：2020年9月25日(金) 18:30～20:30
- 2) テーマ：『「情報セキュリティ白書 2020システム」を読んで』
 - ・研究発表とディスカッション
 - ・発表者：宮崎 雅年 氏

(10) 10月研究会 参加者：3名

- 1) 日 時：2020年10月16日(金) 18:30～20:30
- 2) テーマ：「日本企業のITデータガバナンスの将来」
 - ・第19期通常総会特別講演会のビデオ上映とディスカッション

(11) 11月研究会 参加者：2名

- 1) 日 時：2020年11月20日(金) 18:30～20:30
- 2) テーマ：「既存対策を凌駕し続けるサイバー脅威と整備すべき態勢（AIに前もっての身構え）」
 - ・第250回月例研究会のビデオ上映とディスカッション

5. 1. 4. 広報活動

- (1) 支部活動について対外的に広報、および支部員勧誘を行った。
- (2) 他団体との交流：
 - ・北海道ITコーディネータ協議会との講演会共催、勉強会の相互開放
- (3) 支部員の変動：
 - 1) 2019年度 個人会員12名、法人会員3名
 - 2) 2020年度 個人会員11名、法人会員3名（個人会員1名減）
 - 3) 支部活動への参加：上記以外に非会員のべ7名参加

5. 1. 5. メーリングリストによる連絡

支部メーリングリストにより、支部員間の連絡および情報交換を実施している。

5. 1. 6. ホームページによる情報発信

協会のホームページの支部のコーナーに、北海道支部の情報を記載している。

5. 1. 7. Facebookによる情報発信

Facebook上に北海道支部のページを開設して北海道支部の情報を投稿している。2020年12月5日現在54名がフォローしている。

[>目次](#)

5. 2. 東北支部

5. 2. 1. 支部体制

- 支部長：横倉正教
- 副支部長：佐藤雅英
- 会計：櫻谷昭慶
- 研究広報：佐藤雅英(兼務)、後藤武志、佐々木訓
- 監事：成田由加里
- 顧問：鈴木実

5. 2. 2. 第18回支部総会&特別講演会

- (1) 日時：2020年1月25日(土) 14:00～16:00
- (2) 会場：(仙台)SEED21/会議室
- (3) 内容：(参加者：6名、委任：10名)
 1. 支部総会
 - ・2019年度 事業報告
 - ・2019年度 収支報告
 - ・2020年度 事業計画(案)
 - ・2020年度 予算計画(案)

- ・2020年度 役員改選
- 2. 特別講演会
- ・SAAJ本部 月例研究会のビデオ視聴

(第245回「データ流通システムの概要説明とシステム監査
セキュリティ監査への期待と課題について」)

5. 2. 3. 「ITCみやぎ・SAAJ東北、JISTA東北 ワークショップ2020」

- ・新型コロナウイルス感染防止対策のため、未開催(中止)となった。

5. 2. 4. 定例研究会及び役員会

(1) 3月例会

- 1) 日程: 2020年3月28日(土) 14:00~15:15
- 2) 会場: (仙台市) エスクリブ株式会社/会議室
- 3) 内容: (参加者: 4名)
 1. 研究会
 - ・特別WG活動報告
(「ロボットシステム導入手順ガイド(RIG)」完成)
 - ・2020年度テーマの決定『「ロボットシステム導入チェックシート」の作成』
(「RS導入ガイド(RIG)」と「RS導入RFP見本」を基に)

(2) 5月例会

- 1) 日程: 2020年6月6日(土) 14:00~16:00
- 2) 会場: (仙台市) エスクリブ株式会社/会議室
- 3) 内容: (参加者: 6名、内1名はオンライン参加)
 1. 研究会
 - ・特別WG活動報告
(「ロボットシステム導入RFP見本」完成)
 - ・「ロボットシステム導入チェックシート(構成)」の討議

(3) 7月例会

- 1) 日程: 2020年7月11日(土) 14:00~16:00
- 2) 会場: (仙台市) エスクリブ株式会社/会議室
- 3) 内容: (参加者: 5名、内1名はオンライン参加)
 1. 研究会
 - ・特別WG活動報告
 - ・次回以降の活動内容についての検討

(4) 9月例会

- 1) 日程: 2020年9月12日(土) 14:00~16:00
- 2) 会場: (仙台市) エスクリブ株式会社/会議室
- 3) 内容: (参加者: 5名、内1名はオンライン参加)
 1. 研究会
 - ・特別WG活動報告
(「ロボットシステム導入チェックシート」完成)
 - ・新テーマの検討
(『情報システム監査実践マニュアル第3版』第1部第2章)

(5) 11月例会&役員会

- 1) 日程: 2020年11月21日(土) 14:00~16:30
- 2) 会場: (仙台市) エスクリブ株式会社/会議室
- 3) 内容: (参加者: 4名、内1名オンライン参加)
 1. 役員会
 - ・支部総会について(開催日程・場所、総会議案書、特別講演会)

2. 研究会

- ・『情報システム監査実践マニュアル第3版』第1部第2章についての検討

5. 2. 5. 特別WG活動

- ・ロボットシステム導入時の監査を行うにあたり、導入時のRFPを基に監査を行うことが最善策になると考え、ロボットシステム導入のためのRFP見本を作成する。
- ・さらに、RFP見本の元になる「ロボットシステム導入手順ガイド」を作成する。
- ・そして、作成した「ロボットシステム導入手順ガイド」「ロボットシステム導入RFP見本」を基に「ロボットシステム導入チェックシート」を作成する。

(1) 第7回

- 1) 日程：2020年2月15日（土） 10:00～12:00
- 2) 会場：（仙台市） BLUE LEAF CAFE
- 3) 内容：（参加者：3名）
 1. 「ロボットシステム導入手順ガイド（RIG）」の検討
（2020/2/21：完成）
（2020/2/21：SAAJ総会で配布）
（2020/2/26：SAAJ東北支部サイトに掲載／ダウンロード可）

(2) 第8回

- 1) 日程：2020年3月28日（土） 10:00～11:30
- 2) 会場：（仙台市） BLUE LEAF CAFE
- 3) 内容：（参加者：2名）
 1. 「RIG」の一部を訂正（V1.1としてサイトに掲載）
 2. 「RFP見本」の検討
 3. プレゼン資料（「RIG」と「RFP見本」の解説）の検討

(3) 第9回

- 1) 日程：2020年5月9日（土） 10:00～11:00
- 2) 会場：（オンライン）
- 3) 内容：（参加者：3名）
 1. 「RFP見本」の検討
（2020/5/20：完成）
（2020/5/20：SAAJ東北支部サイトに掲載／ダウンロード可）
 2. プレゼン資料（「RIG」と「RFP見本」の解説）の検討
 3. 「RS導入チェックシート事項」の検討

(4) 第10回

- 1) 日程：2020年6月6日（土） 10:00～11:30
- 2) 会場：（仙台市） BLUE LEAF CAFE
- 3) 内容：（参加者：3名）
 1. 「RS導入チェックシート事項」の検討

(5) 第11回

- 1) 日程：2020年7月11日（土） 10:00～11:30
- 2) 会場：（仙台市） BLUE LEAF CAFE
- 3) 内容：（参加者：3名、内1名はオンライン参加）
 1. 「RS導入チェックシート事項」の検討

(6) 第12回

- 1) 日程：2020年7月23日（土） 18:00～19:15
- 2) 会場：（オンライン）
- 3) 内容：（参加者：3名）
 1. 「RS導入チェックシート事項」の検討

(7) 第13回

- 1) 日程：2020年8月10日（月） 15:00～16:30
- 2) 会場：（オンライン）
- 3) 内容：（参加者：3名）

1. 「RS導入チェックシート事項」の検討

(8) 第14回

- 1) 日程：2020年8月22日（土） 18:00～19:10
- 2) 会場：（オンライン）
- 3) 内容：（参加者：4名）

1. 「RS導入チェックシート事項」の検討

（2020/9/1：完成）

（2020/9/4：SAAJ東北支部サイトに掲載／ダウンロード可）

5. 2. 6. 広報宣伝活動

- ・「ITCみやぎ・SAAJ東北・JISTA東北 ワークショップ2019」が未開催（中止）となり、ワークショップにおけるシステム監査の普及および支部活動の宣伝は行えなかった。
- ・OWASP sendaiのミーティングに参加して、システム監査の普及および支部活動の宣伝を行った。
- ・SAAJ九州支部の定例会にて、特別WG活動で作成した「RS導入手順ガイド（RIG）」と「RS導入RFP見本」についての講演をオンラインで行った。

[>目次](#)

5. 3. 北信越支部

5. 3. 1. 支部体制

- 支部長：宮本茂明（石川）
- 副支部長：梶川明美（富山）
- 会計：長棟 隆（富山）
- 監事：梶川明美（富山）
- 県部会長：小嶋潔（福井）、福田和夫（石川）、梶川明美（富山）、
風間一人（新潟）、長谷部久夫（長野）
- 顧問：森広志（富山）

5. 3. 2. 年度目標と実績

支部会員の能力向上と支部の技術基盤向上を目指す。

(1) 会員相互の研鑽によるシステム監査技術の向上

- ・システム監査・情報セキュリティ監査・システムリスク管理等、会員の担当業務の課題や研究活動に関する情報共有・意見交換により、課題解決への方向性等の気づきの場を設けた。

(2) 本部、他支部との交流による知識、技術力の向上

- ・研究会ビデオの貸出し運営を行った。（地域別上映）。
- ・他支部との合同研究会への参加。

(3) プレゼンテーション能力の向上

- ・研究報告プレゼンテーションの場を活用した。

(4) インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上

- ・リモート会議、メーリングリストを活用した西日本支部合同研究会報告テーマに関する意見交換を実施した。

(5) 会員増強／システム監査の普及・啓発

- ・他団体との支部例会での交流等を通じ会員増強／システム監査の普及・啓発の場を検討したが、コロナ渦の影響で、開催時期を翌年以降とした。

5. 3. 3. 活動報告

- (1) 北信越支部年度総会 2020年4月6日(メールによる審議/意見交換)
- ・2019年度活動報告と2020年度活動計画について
 - ・2019年度会計報告と2020年度会計計画について
- (2) 6月リモート例会 2020年6月6日(土)(zoomによるオンライン開催)[参加:15名]
- 1) 本部総会/理事会のトピックス等報告/参加者紹介
 - 2) 2020年度北信越支部テーマ説明
「テレワークに関連する情報システムマネジメントとIT アセスメント」
 - 3) 研究報告
 - ・「テレワークのポイント」 栃川 昌文 氏
 - ・「テレワークに関連する情報システムマネジメントの概要(各種ガイドライン紹介)」 宮本 茂明 氏
 - ・「リモート監査に関する考察」 梶川 明美 氏
 - ・「IT経営を考える」 森 広志 氏
- (3) 8月リモート例会 2020年8月1日(土)(zoomによるオンライン開催)[参加:10名]
- 1) 本部理事会のトピックス等報告
 - 2) 西日本支部合同研究会開催予定について
 - 3) 研究報告
 - ・「IT経営の事例-小売業-」 森 広志 氏
 - 4) テレワークに関連する意見交換
 - ・「境界型セキュリティとゼロトラストセキュリティ」
 - ・「リスクアセスメントのアプローチ方法について」
- (4) 10月リモート例会 2020年10月17日(土)(zoomによるオンライン開催)[参加:11名]
- 1) 本部理事会のトピックス等報告
 - 2) 研究報告
 - ・「共通EDI」について 栃川 昌文 氏
 - ・「テレワークにおけるリスクアセスメント・アプローチについて」(報告と意見交換) 宮本 茂明 氏
- (5) 西日本支部合同研究会 2020年11月28日(土)(zoomウェビナーによるオンライン開催)
- 1) テーマ:「リスク管理とITアセスメント最前線」
 - 2) 北信越支部報告:
「テレワークにおけるリスクアセスメント・アプローチについて」 宮本 茂明 氏
- (6) 12月リモート例会 2020年12月5日(土)(zoomによるオンライン開催)[参加:10名]
- 1) 本部理事会のトピックス等報告
 - 2) 西日本支部合同研究会参加報告
 - 3) 2021年度支部活動計画意見交換
 - 4) システム監査に関連する意見交換
 - コロナ過における監査、PPAP、パスワード管理、二要素認証等

[>目次](#)

5. 4. 中部支部

5. 4. 1. 支部体制

- 支部長(理事) : 安井 秀樹
- 副支部長(理事) : 杉山 重人
- 会計担当 : 加藤 智康
- 会計監査 : 鈴木 尚
- 監事 : 栗山 孝祐
- 顧問 : 久保田 秀男

- 顧問 : 大友 俊夫
○顧問 : 田中 勝弘(本部研究会ビデオ管理担当)

5. 4. 2. 活動方針

- (1) 中部支部内会員の継続的な相互研鑽・交流を図る。
- (2) 中部支部以外の地域や団体との情報交流を積極的に展開していく。

5. 4. 3. 活動内容

- (1) 第1回研究会
 - 1) 日時 : 2020年1月25日(土) 14:00~17:00
 - 2) 場所 : ORE名古屋伏見ビル 8階 富士通E会議室 参加12名
 - 3) 内容 :
 - ・2020年中部支部体制・予算確認
 - ・2020年中部支部活動計画検討
 - ・2020年西日本合同研究会テーマ検討
- (2) 第1回2020年西日本合同研究会検討会議
 - 1) 日時 : 2020年4月11日(土) 10:00~12:00
 - 2) 場所 : オンライン会議(ZOHO) 参加7名
 - 3) 内容 : テーマ検討
- (3) 第2回2020年西日本合同研究会検討会議
 - 1) 日時 : 2020年5月10日(日) 10:00~11:30
 - 2) 場所 : オンライン会議(ZOHO) 参加10名
 - 3) 内容 : テーマ検討
- (4) 第2回研究会
 - 1) 日時 : 2019年5月23日(土) 14:00~16:00
 - 2) 場所 : オンライン会議(ZOHO) 参加14名
 - 3) 内容
 - ・出版記念 : 「失敗しないシステム開発のためのプロジェクト監査とは」
SAAJ 中部支部 加藤 智康 氏
 - ・2020年西日本合同研究会 行程表検討
- (5) 第3回2020年西日本合同研究会検討会議
 - 1) 日時 : 2020年6月28日(日) 16:00~17:30
 - 2) 場所 : オンライン会議(ZOHO) 参加10名
 - 3) 内容 : 行程表と役割分担検討
- (6) 第3回研究会
 - 1) 日時 : 2020年7月11日(土) 14:00~17:00
 - 2) 場所 : オンライン会議(ZOOM) 参加: 12名
 - 3) 内容
 - ・「情報倫理を考える」
SAAJ 中部支部 萬代 みどり 氏
 - ・2020年西日本合同研究会 行程表と役割分担確認
- (7) 第4回2020年西日本合同研究会検討会議
 - 1) 日時 : 2020年8月23日(日) 10:30~12:00
 - 2) 場所 : オンライン会議(ZOOM) 参加13名
 - 3) 内容 : 進捗と課題の確認
- (8) 第5回2020年西日本合同研究会検討会議
 - 1) 日時 : 2020年9月12日(土) 15:00~16:30
 - 2) 場所 : オンライン会議(ZOOM) 参加16名
 - 3) 内容 : 進捗と課題の確認

- (9) 第6回 2020年西日本合同研究会検討会議
- 1) 日時：2020年9月26日(土) 14:00~16:00
 - 2) 場所：オンライン会議(ZOOM) 参加16名
 - 3) 内容：JRGT現地テスト・進捗と課題の確認
- (10) 第7回 2020年西日本合同研究会検討会議
- 1) 日時：2020年10月17日(土) 10:00~12:00
 - 2) 場所：オンライン会議(ZOOM) 参加20名
 - 3) 内容：講演者とJRGT接続テスト・進捗と課題の確認
- (11) 第8回 2020年西日本合同研究会検討会議
- 1) 日時：2020年11月1日(日) 14:00~16:00
 - 2) 場所：オンライン会議(ZOOM) 参加20名
 - 3) 内容：講演者とJRGT接続テスト・進捗と課題の確認
- (12) 2020年西日本合同研究会反省会
- 1) 日時：2020年12月12日(土) 15:00~17:30
 - 2) 場所：オンライン会議(ZOOM) 参加20名
 - 3) 内容：
 - ・西日本合同研究会 2020 の本部報告
 - ・2021年1月研究会の日程調整
 - ・2020年西日本合同研究会の反省会

5. 4. 4. イベント

- (1) 「2020年度 西日本支部合同研究会」
- 1) 日時：2020年11月28日(土) 13:00-17:05
 - 2) 場所：ZOOMウェビナーによるオンライン開催 参加86名
 - 3) 統一テーマ：「リスク管理とITアセスメント最前線」
 - 4) 講演概要
 - <本部講演>
 - 講演テーマ：ISOにおけるガバナンス最前線
 - 講演者：松尾正行氏
 - 講演テーマ：赤本『情報システム監査実践マニュアル(第3版)』のご紹介
 - 講演者：カ利則氏
 - <北信越支部>
 - 講演テーマ：テレワークに関連するリスクアセスメントについて
 - 講演者：宮本茂明氏
 - <近畿支部>
 - 講演テーマ：2021年問題と2027年問題への対応は万全か？
 - 講演者：田淵隆明氏
 - <九州支部>
 - 講演テーマ：コロナ禍対応のISMSの視点での考察
 - 講演者：船津宏氏
 - <中部支部>
 - 講演テーマ：JR東海グループにおけるシステム監査の取り組みと今後の展望
 - 講演者：浅野卓氏

[> 目次](#)

5. 5. 近畿支部

5. 5. 1. 支部体制

(1) 支部役員：

○理事（支部長／BCP 研究プロジェクト／IT サービスグループ）	荒町弘
○理事（副支部長／会計／教育サービスグループ）	福本洋一
○理事（副支部長／教育サービスグループ）	荒牧裕一
○担当役員（IT サービスグループ／教育サービスグループ）	是松徹
○担当役員（教育サービスグループ）	山本全
○担当役員（IT サービスグループ）	磯貝あずさ
○担当役員（システム監査法制化推進プロジェクト）	田淵隆明
○担当役員（システム監査法制化推進プロジェクト）	神尾博
○担当役員（BCP 研究プロジェクト）	松井秀雄
○監事	浦上豊蔵

(2) 支部参与：

吉田博一

(3) サポーター：

三橋潤、松本拓也、植垣雅則、尾浦俊行、金子力造、川端純一、中田和男、吉谷尚雄、
阪口博一、伊藤聖子、尾崎正彦、岩崎真明、小河裕一、浜田恒彰、石嶋藤代、魚谷悦己

※サポーターには定例研究会受付など支部の基幹的活動へ少しでも参画いただきます。

5. 5. 2. 活動方針

- ・定例研究会、システム監査勉強会を基本として、研究プロジェクト・グループ活動を通じて実践的な研鑽活動を行い、支部活動を充実する。また、支部役員会・サポーター会議の計画的な開催と課題管理等により支部運営のマネジメントを実施する。
- ・協会本部のシステム監査活性化プロジェクトの活動に連動して、支部会員の増強に努める。
- ・各活動については事業別の採算状況の可視化を行うことで財務の健全化と事業戦略策定への活用を行い、近畿支部財政状況の改善を目指す。
- ・2020 年度も引き続き支部活動におけるスタッフ増強に向け、積極的に支部会員へ参加を働きかける。
- ・支部サポーター及び担当役員の候補者を増やせるよう努める。

5. 5. 3. 2020 年度支部総会

(1) 日時：1 月 17 日（金） 場所：大阪大学中之島センター

(2) 出席者：11 名、委任状：22 名

(3) 議題

- 1) 支部体制について
- 2) 2019 年度事業報告／決算報告
- 3) 2020 年度事業計画／予算計画

全て異議なく承認された。

5. 5. 4. 支部役員会・サポーター会議

支部活動の報告、今後の活動について、支部役員、及びサポーター各位と討議した。2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインミーティングによる開催とした。

(1) 支部役員会 3 月 27 日（メールによる持ち回り開催）
6 月 26 日 10 月 2 日 11 月 27 日（オンライン会議による開催）

(2) サポーター会議 6 月 26 日 11 月 27 日（オンライン会議による開催）

5. 5. 5. グループ活動

(1) 教育サービスグループ

・主査：荒牧裕一氏 副主査：福本洋一氏、是松徹氏、山本全氏

【目標】

1. 近畿支部会員を中心としたシステム監査人の方々に、システム監査に関連する教育サービスを提供し、システム監査人の知見やスキルの向上に寄与することを目的とする。

2. セミナーを通して、システム監査に関心がある方々および実際に企業内で関与されている方々に、システム監査の知識や体験を修得いただくことを目的とする。

【成果】

- ・定例研究会：4回開催（1,7,9,12月）※3月5月は開催見送りとした
※11月に予定していたシステム監査基本学習セミナー開催は見送りとし、2020年度は教材企画検討の年度として位置付けた。
- ・システム監査勉強会：4回開催（6,10月）※4月6月は開催見送りとした
- ・上記サービス提供にあたっての、運営計画書（TODO管理ツール）

【定例研究会】

- 1) 第183回 1月17日（金） 出席者：33名
テーマ：「地方自治体におけるRPAの取り組み」
講師：近畿大学 経営学部 教授、博士（経営情報学）
システム監査技術者、技術士（情報工学部門） 津田 博 氏
- 2) 第184回 7月18日（金） 出席者：39名
テーマ：「ポスト・コロナ時代を迎え、AIに負けないため、我々システム監査人はどうあるべきか？」
講師：公認システム監査人、IFRS・連結会計コンサルタント、
公共政策・公会計コンサルタント、特定行政書士 田淵 隆明 氏
- 3) 第185回 9月18日（金） 出席者：30名
テーマ：「ICT部門におけるBCPへの取り組みと課題」
講師：日本システム監査人協会近畿支部会員（BCP研究プロジェクト副主査）
公認システム監査人、NPO 情報システム監査普及機構 理事長 松井 秀雄 氏
- 4) 第186回 12月15日（土） 出席者：21名
テーマ：「令和2年改正個人情報保護法の概説～個人データのビジネス利用における法的留意点」
講師：弁護士法人第一法律事務所 パートナー弁護士
日本システム監査人協会 近畿支部 副支部長 福本 洋一 氏

【システム監査勉強会】

- 1) 第68回 2月15日（土） 出席者：39名
SAAJ本部第245回/246回月例研究会のDVDを視聴。
テーマ1：「データ流通システムの概要説明とシステム監査、セキュリティ監査への期待と課題について」
講師：データ流通推進協議会 技術基準検討委員会 副委員長 小池 博 氏
テーマ2：第1部 「AIについて監査人が考慮すべきこと（監査人の考慮点）」
講師：日本システム監査人協会副会長 月例研究会主査 力 利則 氏
テーマ2：第2部 「AI時代における監査の取組みとポイント（監査の具体的な取組み方）」
講師：ISACA 東京支部調査研究委員 AI研究会、システム監査制度研究会 AI/IoT 分科会
前財務総括会長・理事 稲垣 敦夫 氏
 - 2) 第69回 10月17日（土） 出席者：27名
SAAJ本部第247回/249回月例研究会のDVDを視聴。
テーマ1：「2025年の崖問題とDX推進に向けた政策展開」
講師：経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課（ITイノベーション課）
DX制度企画チーム 法制企画担当補佐 和田 憲明 氏
テーマ2：「クラウドサービスに関する安全性評価制度について」
講師：経済産業省 商務情報政策局 情報経済課 課長補佐 関根 悠介 氏
- (2) 教育サービスグループ（セミナー担当）
システム監査の普及とシステム監査人の養成を目的としてセミナー開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を見送りとし、2020年度は教材企画検討の年度として位置付けた。
- (3) ITサービスグループ

支部の情報交換、情報発信及び研究プロジェクトの活動支援を行い、近畿支部サイトのセキュリティ強化への取り組みを行った。体制および主な成果等は以下の通りである。

・主査：是松徹氏 副主査：近藤博則氏、磯貝あずさ氏、荒町弘氏

【目標】

1. 近畿支部の諸活動の可視化による、活性化支援を目的とする。
2. 具体的には、Webサイト (<http://www.saaik.org/>) とMLの安定運用、サイト（コンテンツ）の充実、メールマガジンの発行を行う。

【成果】

- ・Webサイトの更新（平均2ヶ月1回）：定例の情報更新に加え、トピック等を掲載
- ・Webサイト/MLの安定運用：サイトのh t t p s化等
- ・メールマガジンの発行（第46号～第49号）：季刊
- ・本部会報投稿：時事論評4本、エッセイ5本

5. 5. 7. 研究プロジェクト

(1) システム監査法制化推進プロジェクト

システム監査の法制化、及びIT政策に関する研究、提言、情報発信を実施した。定例研究会での発表、本部会報への投稿を行った。

定例研究会での講演（7/18）を実施。「ポスト・コロナ時代を迎え、AIに負けないため、我々システム監査人はどうあるべきか？」講師：田淵隆明氏。

・主査：田淵隆明氏 副主査：神尾博氏

【目標】

1. システム監査法制化のロビー活動(ただし各個人の立場で)
2. システム監査法制化以外のIT政策の研究・提言・発信
3. 各自自治体における、システム監査義務化の推進状況の発信

【成果】

- ・講演：7月定例研究会にて講演実施
「ポスト・コロナ時代を迎え、AIに負けないため、我々システム監査人はどうあるべきか？」
- ・本部会報掲載：コラム14本
- ・【コラム】『AI時代に負けないために、システム監査人はどうあるべきか?』*11本（田淵）
- ・【時事論評】「パラダイムシフト時代の悪夢と希望」*3他1（神尾）

(2) BCP研究プロジェクト

企業組織におけるIT-BCP策定にあたっての課題等を考慮しつつシステム監査のポイントを検討してきた。2020年度はコロナ禍の中、会合を全てオンライン会議による実施に切り替え、活動を継続した。医療機関におけるIT-BCP研究については、医療機関におけるBCP策定例の共有および考察等を行い、年度後半はテレワークにおけるBCPの研究に主テーマを切り替えた。

・主査：荒町弘氏 副主査：松井秀雄氏

【目標】

1. 組織におけるBCPに役立つ情報発信を行う。
2. IT-BCPに関する監査基準・ポイントを整理する。

【成果】

- ・講演：9月18日 定例研究会にて講演（松井氏）。
「ICT部門におけるBCPへの取り組みと課題」。
- ・執筆掲載：SAAJ赤本プロジェクト（2020年6月「情報システム監査実践マニュアル」発刊）。
事業継続におけるシステム管理基準の活用分野で原稿掲載
「システム管理基準とレジリエンス認証制度に関する考察」。
- ・WG開催日：2月19日 3月11日 4月15日 5月13日 6月10日 7月8日
9月9日 9月18日（松井氏による講演） 10月14日 11月11日 12月9日

5. 6. 中四国支部

5. 6. 1 支部体制

- 支部長 : 廣末 浩之
- 副支部長 : 田川 誠、佐藤 康之
- 会計 : 本多 美和子
- 監事 : 福原 博明

5. 6. 2. 活動概要

- (1) 月例会の実施 (計 4 回実施)
- (2) 支部メーリングリストによる連絡、情報交換等

5. 6. 3 活動実績

月例研究会 (東京) の DVD の視聴及び情報交換を中心に月例会を実施した。

- (1) 1 月度月例会 2020 年 1 月 30 日 (木) 18:00~20:00 出席 8 名
「2025 年の崖問題と DX 推進に向けた政策展開」 (DVD 視聴及び情報交換)
- (2) 3 月度月例会 2020 年 3 月 19 日 (木) 18:00~20:00 出席 5 名
「クラウドサービスに関する安全性評価制度について」 (DVD 視聴及び情報交換)
- (3) 7 月度月例会 2020 年 7 月 30 日 (木) 18:00~20:00 出席 5 名
「日本企業の IT ガバナンスの将来」 (DVD 視聴及び情報交換)
- (4) 11 月度月例会 2020 年 11 月 5 日 (木) 18:00~20:00 出席 6 名
「既存対策を凌駕し続けるサイバー脅威と整備すべき態勢 (前もつての身構え)」
(DVD 視聴及び情報交換)

5. 7. 九州支部

5. 7. 1. 役員体制

- 支部長 : 船津 宏
- 副支部長 : 荒添 美穂、中溝 統明
- 会計 : 鶴岡 通
- 監査 : 下司 正雄
- 事務局 : 福田 啓二、平山 克己、桐原 光洋、梶屋 博史

5. 7. 2. 活動概要

- (1) 月例会の開催。
1 月まで対面の月例会を開催した。(福岡市)
2 月~4 月は休会、5 月から ZOOM による月例会を実施した。
また、月例会はシステム監査学会や ISACA 福岡支部との共催となっている。
- (2) イベント企画・推進について
大分合同セミナーを九州支部と大分県中小企業診断士協会・大分 IT 経営推進センター・システム監査学会
共催で開催(2/22)。
九州支部総会を実施した。(12/19)。

5. 7. 3. 月例会

毎月、本部月例研究会のビデオ視聴および支部会員の研究・検討・報告事項の発表を中心に行った。

以下は各月の主要事項。(各回の主要発表事項)

- (1) 第 334 回 1 月度月例会 1 月 25 日 (土) 13:00~17:00
参加: 25 名 (内 SAAJ 11 名)

・講演: 「グローバルなデータを巡る国際動向と日本における個人情報保護の方向性」

- 講師：SAAJ 近畿支部 福本 洋一 弁護士
- ・ビデオ視聴：「2025年の崖問題とDX推進に向けた政策展開」
 - ・報告・連絡
- (2) 第335回 5月度月例会 5月30日(土) 13:00~17:00
参加：20名(内SAAJ 12名)
- ・ビデオ視聴：「クラウドサービスに関する安全性評価制度について」
 - ・報告・連絡
- (3) 第336回 6月度月例会 6月27日(土) 13:00~17:00
参加：23名(内SAAJ 12名)
- ・ビデオ視聴：「日本企業のITガバナンスの将来」
 - ・報告・連絡
- (4) 第337回 7月度月例会 7月25日(土) 13:00~17:00
参加：23名(内SAAJ 14名)
- ・ビデオ視聴：「動かないコンピュータを振り返る-日経コンピュータ誌1000号分の軌跡」
(ISACA提供)
 - ・報告・連絡
- (5) 第338回 8月度月例会 8月29日(土) 13:00~17:00
参加：27名(SAAJ 11名)
- ・公開動画視聴：「第4回情報法制シンポジウム テーマ1～個人情報保護法 改正の行方～」
 - ・報告・連絡
- (6) 第339回 9月度月例会 9月26日(土) 13:00~17:00
参加：25名(SAAJ 12名)
- ・ビデオ視聴：「既存対策を凌駕し続けるサイバー脅威と整備すべき態勢(前もっての身構え)」
 - ・報告・連絡
- (7) 第340回 10月度月例会 10月24日(土) 13:00~17:00
参加：13名(SAAJ 9名)
- ・動画視聴：「新型コロナ禍を踏まえた内部監査の対応」(JSSA提供)
 - ・報告・連絡
- (8) 第341回 12月度月例会 12月12日(土) 13:00~17:00
参加：21名(SAAJ 12名)
- ・ビデオ視聴：「テレワーク時代におけるシステム監査について」
 - ・報告・連絡

5. 7. 4. 主催、共催イベント

- (1) 大分IT経営推進センター主催 大分 合同セミナー (九州支部:4名)
- 1) 日時：2020年2月22日(土) 13:30~17:30
 - 2) 会場：ホルトホール大分 407会議室
 - 3) 内容：
 - 【第一部】大分IT経営推進センター会員による講演とディスカッション(12:35~13:45)
「中小企業のお客様開拓、お客様のファン化につながる動画活用」
講師：佐藤 和彦 氏
 - 【第二部】「エンジニアの考えるIT導入について~RPA、AIへの取り組み概要~」
講師：坂本 博之 氏
 - 【第三部】日本システム監査人協会会員による講演とディスカッション(15:15~16:25)
「(超)スマート社会 日本政府と新興国の動き」
講師：荒添 美穂 氏
- (2) 九州支部総会 (7名)
- 1) 日時：2020年2月22日(土) 13:30~17:30 ZOOM開催

2) 内容 :

- ・2020 年活動実績
- ・会計報告
- ・2021 年方針
- ・提案事項

> 目次

第2部 会計報告及び会計監査報告

1. 2020年度 活動計算書

2020年1月1日から2020年12月31日まで 特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第19期

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取入会金・会費			
受取入会金	64,000		
受取会費	6,780,000	6,844,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金	567,000	567,000	
3 事業収益			
普及・啓発、広報事業収益	0		
研究・研修事業収益	2,449,004		
認定事業収益	6,352,850		
支部事業収益	356,606	9,158,460	
4 その他収益			
印税収益	441,012		
雑収益	3,136	444,148	
経常収益 計			17,013,608
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
事業活動手当	2,749,875		
人件費 計	2,749,875		
(2) その他経費			
普及・啓発、広報事業運営費	816,090		
研究・研修事業運営費	939,111		
認定事業運営費	494,420		
支部事業運営費	622,236		
事務所運営費	216,053		
その他経費 計	3,087,910		
事業費 計		5,837,785	
2 管理費			
(1) 人件費			
事務局手当	4,007,297		
厚生費	4,805		
人件費 計	4,012,102		
(2) その他経費			
通信費	165,979		
旅費交通費	438,344		
消耗品費	271,724		
会議費	245,402		
事務所運営費	1,512,374		
ハード・ソフト費用	299,338		
減価償却費	234,595		
租税公課	3,576		
諸会費	72,000		
印税支払	327,443		
雑費	180,143		
その他経費 計	3,750,918		
管理費用 計		7,763,020	13,600,805
当期経常増減額			3,412,803
III 経常外費用			
1 固定資産除却損		1	
経常外費用 計			1
当期正味財産増減額			3,412,802
前期繰越正味財産額			22,551,014
次期繰越正味財産額			25,963,816

> 目次

2. 2020年度 貸借対照表

2020年12月31日現在

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第19期

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金・預金	27,784,711		
流動資産 合計		27,784,711	
2 固定資産			
(1) 有形固定資産			
器具備品	340,022		
有形固定資産 計	340,022		
(2) 無形固定資産			
ソフトウェア	145,800		
無形固定資産 計	145,800		
(3) 投資その他の資産			
敷金	966,336		
投資その他の資産 計	966,336		
固定資産 合計		1,452,158	
資産 合計			29,236,869
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	154,128		
預り金	190,925		
前受金	2,928,000		
流動負債 合計		3,273,053	
負債 合計			3,273,053
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産額		22,551,014	
当期正味財産増減額		3,412,802	
正味財産 合計			25,963,816
負債及び正味財産 合計			29,236,869

3. 計算書類に対する注記

3. 1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO 法人会計基準（NPO 法人会計基準協議会）によっています。

(1) 固定資産の減価償却の方法

器具備品は定率法、ソフトウェアは定額法により、帳簿価額を直接減額しています。

(2) 消費税等の会計処理方法

税込方式によっています。

[> 目次](#)

3. 2. 事業別損益の状況

(単位:円)

科目	普及・啓発、 広報事業	研究・研修 事業	認定事業	支部事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益							
1 受取入会金 ・会費						6,844,000	6,844,000
2 受取寄附金						567,000	567,000
3 事業収益		2,449,004	6,352,850	356,606	9,158,460		9,158,460
4 その他収益						444,148	444,148
経常収益計		2,449,004	6,352,850	356,606	9,158,460	7,855,148	17,013,608
II 経常費用							
(1)人件費							
手当	180,000	639,750	1,930,125		2,749,875	4,007,297	6,757,172
厚生費						4,805	4,805
人件費 計	180,000	639,750	1,930,125		2,749,875	4,012,102	6,761,977
(2)その他経費							
事業運営費	816,090	939,111	494,420	622,236	2,871,857		2,871,857
通信費						165,979	165,979
旅費交通費						438,344	438,344
消耗品費						271,724	271,724
会議費						245,402	245,402
事務所運営費			216,053		216,053	1,512,374	1,728,427
ハード・ ソフト費用						299,338	299,338
減価償却費						234,595	234,595
租税公課						3,576	3,576
諸会費						72,000	72,000
印税支払						327,443	327,443
雑費						180,143	180,143
その他経費 計	816,090	939,111	710,473	622,236	3,087,910	3,750,918	6,838,828
経常費用 計	996,090	1,578,861	2,640,598	622,236	5,837,785	7,763,020	13,600,805
当期経常増減額	△996,090	870,143	3,712,252	△265,630	3,320,675	92,128	3,412,803

支部に対しては、本部より助成金として、861,000円を支給していますが、上記損益状況には含んでいません。

3. 3. 固定資産の増減内訳

(単位:円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
器具備品	2,797,816	270,159	128,100	2,939,875	2,599,853	340,022
無形固定資産						
ソフトウェア	3,846,000			3,846,000	3,700,200	145,800
投資その他の資産						
敷金	966,336			966,336		966,336
合計	7,610,152	270,159	128,100	7,752,211	6,300,053	1,452,158

3. 4. 役員及びその近親者との取引の内容

(単位:円)

科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
(活動計算書)		
事業活動手当	2,749,875	1,502,325
事務局手当	4,007,297	1,137,570
活動計算書 計	6,757,172	2,639,895

3. 5. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

・事業費と管理費の按分方法

各事業の経費及び事業費と管理費に共通する経費のうち、事務所運営費については、事務所の使用面積割合に基づき按分しています。

[> 目次](#)

4. 2020年度 財産目録

2020年12月31日現在

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第19期

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
・本部現金預金		
三井住友銀行（日本橋東）	7,443,458	
みずほ銀行（八重洲口）	2,539,921	
三菱東京U F J 銀行（日本橋）	3,475,541	
楽天銀行	1,345,091	
郵便振替口座	4,923,075	
郵便普通預金	4,312,064	
小口現金	299,585	
・北海道支部現金預金		
北洋銀行（東屯田）	372,643	
・東北支部現金預金		
七十七銀行（仙台東口）	139,324	
ゆうちょ銀行（八一八）	13,450	
小口現金	2,605	
・北信越支部現金預金		
北陸銀行（本店）	387,951	
・中部支部現金預金		
名古屋銀行（上前津）	567,781	
小口現金	1,000	
・近畿支部現金預金		
三井住友銀行（大阪本店）	1,199,566	
・中四国支部現金預金		
広島銀行（段原）	349,439	
・九州支部現金預金		
福岡銀行（天神町）	412,217	
流動資産 合計		27,784,711
2 固定資産		
（1）有形固定資産		
シュレッダー 1 台	1	
パソコン 4 台	340,018	
プロジェクター 4 台	1	
サーバー 1 台	1	
ストレージ 1 台	1	
有形固定資産 計	340,022	
（2）無形固定資産		
クラウドサーバーOS アップグレード	145,800	
無形固定資産 計	145,800	
（3）投資その他の資産		
敷金 共同ビル	966,336	
投資その他の資産 計	966,336	
固定資産 合計		1,452,158
資産合計		29,236,869
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金		
ホームページ更新作業料等	154,128	
預り金		
源泉徴収税金	190,925	
前受金		
翌年以降分の会費・入会金	2,884,000	
翌年以降分の CSA・ASA 更新料	44,000	
流動負債 合計		3,273,053
負債合計		3,273,053
正味財産		25,963,816

> 目次

5. 2020年度 監査報告

監査報告書

1. 特定非営利活動法人日本システム監査人協会における2020年度

(2020年1月1日から2020年12月31日)の活動計算書、貸借対照表並びに財産

目録は、関係諸帳簿、その他の関係書類を監査したところ、いずれも適正であり、また、

NPO法人会計基準に準じて正確に作成されたものであることを認めます。

2. 業務遂行に関しては、不正行為または法令もしくは定款に違反する事実は認められません。

2021年1月30日

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

監事

木村裕一 

監事

大西智 

>目次

2 2021年度 事業計画（案）

[>目次](#)

1.本部・計画

1. 1. 全般概要・計画

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響がどのようになるかまだ先が見えない状況もある。しかし、当面想定されるウイズコロナという新たな環境の中で、2020年度に取り組んだ研究会やセミナーのオンライン化などをさらに深化し、引き続き会員サービスの向上、システム監査人の社会的評価の向上、システム監査の活性化等のため、以下のように協会運営を行う。

(1) 2021年度活動方針

2021年度の協会の活動方針は次の3点とする。

1) システム監査人の社会的評価の向上

協会の認定資格である「公認システム監査人」への評価を向上させる。

2) システム監査の活性化

○システム監査を核にした“IT アセスメント”の普及を図り、SAAJの活動を“IT アセスメント”の実践に焦点を当てて取り組む。

○この取組によって、システム監査人のビジネス機会の拡大を図り、SAAJの知名度向上、会員の増大に繋げる。

3) 協会運営体制の充実と認知

○研究会、部会活動を中心に、会員参加の協会運営体制の充実を図る。

○オンラインによる会議やセミナー等を全国で実施し、会員サービス向上を図る。

○認定NPO法人として、協会の公益性を広く認知させることで、会員増強を図る。

(2) 2021年度活動計画

システム監査の活性化の一環として、次の活動に取り組む。

1) 「ITガバナンスのアセスメント」のISO化を推進する。

2) システム監査に関連する他団体との交流・連携を推進する。

3) 2020年6月に、改訂版システム監査基準、システム管理基準に対応して刊行した『情報システム監査実践マニュアル（第3版）』を活用し、システム監査の普及に寄与する。

4) ホームページ、会報の充実を図り、会員同士のコミュニケーション、協会外部に対する情報発信を推進する。

5) 事務局

事務局業務の効率化を図り、会員サービスの向上に取り組むとともに、会計と協力し、協会の健全運営に努める。

(3) 2021年度の予算編成

予算は協会の活動方針に沿って編成する。

1) 編成方針

収益性ととも活動性を重要とする（有効性の高い活動への重点配分）。

2) 事業活動

事業活動は、収支バランスを原則とする。収支は公認システム監査人等認定事業収支が隔年上下変動することを考慮し、2年タームで収支を確認する。

[>目次](#)

2. 委員会・計画

2. 1. システム監査活性化委員会・計画

(1) 体制

○委員長 : 小野修一会長

○メンバー : 各研究会、部会、委員会、担当の主査および各支部長

(2) 2021 年度活動方針

2021 年度のシステム監査活性化委員会（通称、活性化委員会）は、引き続き、SAAJ の「ビジョン」の実現につながる具体的施策および会員増強策の検討・実施を推進する。

(3) 具体的な施策と今後の課題

2021 年度は、SAAJ の「ビジョン」を実現するための施策について、さらに掘り下げた検討を行い、各研究会等の具体的な活動に反映していく。当委員会のメンバーは各研究会、部会、委員会、担当の主査および各支部長であり、当協会の総力を結集して SAAJ の「ビジョン」実現のための施策を策定・実施していく。研究会等単独ではなく複数の研究会等が協力して取り組むべきと判断した施策については、実施体制（プロジェクトチーム体制）を構築し取り組み、実施状況を委員会の場で報告・意見交換を行う。

- 1) 「会員向け活動説明会」は、2020 年度に実施したオンライン形式での開催が高い評価を得たので、2021 年度もオンライン形式での実施を前提に開催を計画する。SAAJ の組織基盤を支える位置づけになることを期待している。
- 2) 「システム監査を知るための小冊子」の改訂を計画、実施する。この冊子は SAAJ の広報誌として活用場面が広いことから、最新情報を反映し内容の改訂を計画、実施する。
- 3) 活性化のための取組についての検討、実施が会員増強にも繋がると考えており、併せて活動を展開する。

[> 目次](#)

2. 2. ホームページ運営委員会・計画

(1) 体制

- 委員長 : 斎藤由紀子
- メンバー : 委員会・部会・研究会の各主査、支部長

(2) 2021 年度活動方針

協会のホームページ <https://www.saaaj.or.jp/> について、SAAJ の魅力を伝えられるコンテンツへの見直しを図る。事務局サイトでは、役員が利用する様式等、情報共有の充実を図る。

(3) 具体的な施策と今後の課題

- 1) 協会のホームページ <https://www.saaaj.or.jp/> の更新については、委託先への依頼手順を整理し、効率化を図る。なお、単に文字や画像の表示変更であれば、従来どおり事務局にでも対応する。
- 2) 新たなページ策定については、各メンバーが動画配信など自主的にアイデアを提供し、試行錯誤を含めて、魅力的なページ作成のために HP 委員会が協力する。
- 3) 事務局サイト、<https://www.saaaj.jp> に公開している「PMSハンドブックV1」及び「PMSハンドブックV2」「失敗しないシステム開発のためのプロジェクト監査」読者限定サイトのダウンロードサイトを継続して公開する。
- 4) 会報、総会資料のダウンロードサイト、月例研究会開催履歴は今後も継続して公開していく。

[> 目次](#)

2. 3. 推薦制度運営委員会・計画

(1) 体制

- 委員長 : 仲厚吉
- メンバー : 松尾正行 三谷慶一郎

(2) 2021 年度活動方針

2021 年度は、1 号推薦（外部からの推薦依頼）又は 2 号推薦（台帳登録者からの自己推薦依頼）を受けてシステム監査人適任者の推薦を行う。

(3) 具体的な施策と今後の課題

1 号推薦、2 号推薦の推薦とともに、行政機関、地方公共団体等より依頼される委員等の推薦に応えること、及び外部団体のシステム監査人募集等に協力することも施策及び今後の課題とする。

[> 目次](#)

2. 4. 認定委員会・計画

(1) 体制

○委員長 : 舘岡均

○メンバー : 常任委員・副委員長(齊藤茂雄、豊田諭、柳田正)、委員(理事)

(2) 2021年度活動方針

コロナ禍の状況ではリスク対応を確実にいき、認定資格応募の認定審査および更新審査の申請者それぞれの事情を勘案してきめ細かく実施する。

1月から2月にかけての資格更新審査と認定証の発行、および春秋期の新規応募者の資格認定審査における受付～審査～面接～認定証の発行は、さらに手順の整理などを行い、業務負荷のピーク時対応と全体効率を考慮して実施する。

認定資格更新手続きについては、2015年度より電子メールによる提出を実施した結果、更新者にとって郵送料が不要となりかつ利便性が良いことから引き続き実施する。

(3) 具体的な施策と今後の課題

特別認定制度の改定(2017年6月8日)を実施したので、引き続きフォローアップを行う。

[>目次](#)

2. 5. CSA利用推進グループ・計画

(1) 体制

○主査 : 齊藤茂雄

○メンバー : 億谷和彦、カ利則、大西智(オブザーバ)

(2) 2021年度活動方針

CSAのプレゼンスと社会的な評価や価値を高め、具体的な実効を挙げることを引続き目標とする。CSA資格更新を積極的に行ってもらえるようにCSA資格の取得効果を実感できる活動を行う。CSAに関わる課題を取りまとめ、CSA利用推進G以外の部会・研究会との連携も深め、SAAJ全体の活動に広げていく。

(3) 具体的な施策と今後の課題

- 1) CSAフォーラムはフェイスtoフェイスの場として年3回以上の開催を目標に推進する。2020年度に実施したオンライン方式をベースに、一方向の単なるセミナー形式ではなく、CSAフォーラムのコンセプトであるフェイスtoフェイスの場にする工夫を行っていく。
- 2) 2017年度に作成した「CSAご案内リーフレット」をCSA・ASAの認知度向上とCSA・ASA資格申請者増のためのツールとして活用する。
- 3) 法人部会と連携して、自治体等に対するDM送付の際「入札条件への資格記載の依頼」を同封する。
- 4) 今後は、CSA利用推進に対する支援メンバーの増強や他部会等との連携を通じ、CSA利用推進について施策の拡充、協会ホームページにおけるCSA関連サイトの内容充実などを図っていく。

[>目次](#)

2. 6. 教育研修委員会・計画

(1) 体制

○委員長 : 三輪智哉

○委員 : 中山孝明、戸室佳代子、越野雅晴

(2) 2021年度活動方針

- 1) これまでと同様、特別認定講習実施機関(以下「講習実施機関」という)2社に委託し、特別認定講習3コースを実施する。
- 2) 特別認定講習3コースに変更はなく、下表のとおり開催する。

講習コース	概要
(1)論文・プレゼンテーションコース (1日コース)	システム監査技術者午後Ⅱ論述式問題に合格できるレベルの論文作成能力、および監査報告のためのプレゼンテーション能力を習得する。
(2)システム監査に関する知識コース (2日コース)	システム監査技術者試験午後Ⅰ記述式問題に合格できるレベルの知識・能力を習得する。
(3)情報システムに関する知識コース (2日コース)	システム監査技術者試験午前・多肢選択式問題に合格できるレベルの知識を習得する。

- 3) 特別認定講習の開催は、コロナ禍の状況下において、各講習実施機関が何回の実施を計画するかにもよるが、近年の開催状況から実施回数および修了者数は2020年度実績と同程度を見込む。
- 4) 講習実施機関の試験問題・採点要領・採点結果について、引き続き必要な協議・見直しおよび指導を継続する。
- 5) 特別認定講習受講者の増加策について、講習実施機関と情報交換や協議を通じ効果的な活動に取り組む。

[> 目次](#)

2. 7. 月例研運営委員会・計画

(1) 体制

- 委員長 : 戸室佳代子
- 副委員長 : 豊田諭、億谷和彦
- メンバー : 麻生秀明 櫻井俊裕 清水恵子 竹原豊和 力利則 福田敏博
細川健一 柳田正 山口達也
- アドバイザー : 木村裕一 仲厚吉 三谷慶一郎

(2) 2021 年度活動方針

2021 年度についても、年間 10 回の開催を予定したい

(3) 各回のテーマ/講師について

- 1) 引続きシステム監査に関連する、鮮度のよいテーマの選定に努めたい。
- 2) テーマ選定にあたり、広く理事全員と会員からも意見を出してもらい参考にする。
- 3) 分野と講師については、特定分野に偏らず、官公庁、諸団体、民間、大学教員及び当協会関係者等のバランスを考慮していきたい。

(4) 具体的な施策と今後の課題

- 1) 会場：機械振興会館を使わず、オンライン開催を基本とする。
- 2) テーマ選定：オンライン化に伴い毎回アンケートを取れるようになったので、アンケート結果も参考に加えて検討する。
- 3) オンライン開催を踏まえた活動体制の構築と運用マニュアルの整備を行う。機械振興会館での会場開催とオンラインでは異なることも多く、会場開催用運用マニュアルとは別にマニュアルを整備する。
- 4) ビデオ撮影を許可いただけない講師の開催回について、各支部と今後の対応を検討する。ビデオ撮影不可であることはご出講ご依頼時には判明しているため、事前に支部と情報共有することは可能。

[> 目次](#)

3. 部会・計画

3. 1. 会報部会・計画

(1) 体制

- 主査 : 竹原豊和
- 副主査 : 安部晃生、越野雅晴
- メンバー : 坂本誠、豊田諭、福田敏博、柳田正、山口達也
- 編集支援 : 会長、各副会長、各支部長

(2) 2021 年度活動方針

2021 年度は、会報年間テーマを「時代の変化とシステム監査」とする。「ニューノーマル」「IoT、AI、デジタル化」「DX」「SDGs」「ESG」「コーポレートガバナンスコード」など、システム監査が置かれた環境が音を立てて動いている。また、システム監査の領域が広がる中、進化の階段の一つ上の段に上がった、次の時代になった、という意味も踏まえて本テーマを策定した。

(3) 会報部会の運営

- 1) 会報投稿原稿は、標準フォーマットを使用して運用する。
- 2) 会報の発行は、編集委員持ち回りで、月次発行を維持する。
- 3) 該当月の編集が終了すると次月号編集担当宛に「引継書」を作成し引き継ぎに漏れないようにする。
- 4) 定期総会時に優れた投稿記事に「会報アワード」を授与する。

[> 目次](#)

3. 2. 法人部会・計画

(1) 体制

○主査 : 山口達也

○主たる活動メンバー：小野修一、齊木孔二、齊藤茂雄、真鍋直緒、矢野一男、佐々野未知

(2) 2021 年度活動方針

会員の拡大、システム監査活性化委員会との連携

- ・2021 年は2020 年に検討・実施してきたコロナ感染拡大防止対応等に十分配慮した活動方式に基づき本格的な活動再開を図る。
- ・2020 年度に引き続きシステム監査活性化委員会等他の部会と連携しつつ、法人正会員の増強に努める。
- ・法人部会、さらには当協会の活動成果のアピールが会員の増強につながるので、活動の充実を図っていく。

(3) 具体的な施策と今後の課題

1) 情報セキュリティセミナーの企画・実施

セミナー実施は協会の知名度向上にも意義のある活動であり、セミナー内容の充実、実施事例のアピールなどによって、さらに広報を行い、実績を上げたい。

昨今のクラウドサービスやサイバーセキュリティの状況を踏まえ、セミナー内容の改定・拡充を企画・実施する。特に2020 年6 月より開始となった「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度 (ISMAP)」が近い将来には、地方公共団体にも適用が拡大される可能性が低い状況を踏まえ、これらの内容の拡充を含めた内容更新を具体的に推進する。

2) 会報での法人会員企業紹介

- ・2020 年度に引き続き会報に会員企業の企業紹介を行うなど、会員企業からの情報発信機会を増やす。

3) 会員同士の情報交換

定例部会などを通じ、次のようなテーマで、会員企業同士で意見交換を行っていく。

- ・システム監査のビジネス化
- ・システム監査を取り巻く技術、情報、動向など技術資料等の輪読の実施
- ・会員相互での最新のシステム監査関連トピックに関する情報交換

4) 定例部会

- ・原則、毎月第2 火曜日に開催する。(2 月、8 月を除く)
- ・上記のうち、奇数月開催分については、Zoom を利用したオンライン開催併用とし、より広い範囲から会員の参加が可能となるような開催方法を実施する。

[> 目次](#)

4. 研究会・計画

4. 1. システム監査事例研究会・計画

(1) 体制

○主査 : 野田正勝

○メンバー : 15名(2020年12月現在)

(2) 2021年度活動方針

- 1) システム監査普及サービスは事例研究会の活動の源泉であるため、引き続き受託活動を進める。
- 2) システム監査実務・実践セミナー、事例に学ぶ課題解決セミナーを定期的に開催する。また、新教材の作成や既存教材の見直しを行うことで、教材の充実とセミナー講師の育成を行う。
- 3) 月例定例会はシステム監査普及サービスの手順・書式の改良、運営方法の改善検討などの体制構築を中心に活動するとともに、各種セミナーの教材検討他の研究活動も行う。

(3) 具体的な施策と今後の課題

1) システム監査普及サービスの受託・実施

- ・システム監査普及サービスは事例研究会の活動の源泉になるものであり、2020年度は5年ぶりに受注できた。2020年度監査チームの体制をベースに継続的に手順や書式、チーム運営方法の見直し・改善を進め、受注体制の強化を行う。

2) 監査普及サービス資料の教材化

- ・2020年度の実績であるk社の教材化を進める。2020年度監査チームを中心に作業を進め、2021年度中に完成させ、可能なら2021年度の実務セミナーの教材として使用する。

3) システム監査実務・実践セミナーの開催

- ・公認システム監査人制度の教育制度の一環として、システム監査実務セミナー4日間コースを2回、システム監査実践セミナー2日間コースを2回開催する。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み開催を調整する。システム監査普及サービス実施結果に基づく新教材の開発、並びに、赤本の改定にともなう既存教材の改定も行い、システム監査未経験の会員及び公認システム監査人補にシステム監査実務を経験する機会を提供する。
- ・セミナー運営に関しては、2015年度より変更した、担当講師がセミナー事務局を兼任する運営体制を踏襲すると共に、講師の育成、運営ノウハウの明文化により、次世代への継承を図る。
- ・具体的な開催計画は、以下の通り。

	2021年予定	内容
1	4月開催予定	第37回実務セミナー土日帰り4日間コース
2	8月～9月開催予定	第38回実務セミナー土日帰り4日間コース
3	6月～7月開催予定	第36回実践セミナー平日帰り2日間コース
4	11月開催予定	第37回実践セミナー平日帰り2日間コース

4) 事例に学ぶ課題解決セミナーの開催

- ・月例定例会での教材アイデアの検討を再開し、教材及び教師の増強を図る。年2回(6月、12月)の開催を目標とする。

5) 月例定例会の活性化

- ・2020年度にシステム監査普及サービスを実施したことに伴い、同サービスの手順・書式の改良、運営方法の改善検討などの体制構築を月例定例会の活動の中心とする。また、課題解決セミナー教材のアイデア検討やその他の研究活動も引き続き実施する。新規会員の勧誘については、実務・実践セミナーの開催時、並びに、協会の活動説明会時等に積極的に行い、月例定例会の活性化を図る。

[>目次](#)

4. 2. 情報セキュリティ監査研究会・計画

(1) 体制

○主査 : 舘岡均

○メンバー : 齊藤茂雄、大西智、豊田諭、村上進司、柳田正、福田敏博、山口達也、竹原豊和、麻生秀明、永井徳人、前島 亮、佐藤雅英(東北支部)、佐々木訓(東北支部)

○オブザーバ：仲厚吉、櫻井俊裕、中山孝明、他

(2) 2021 年度活動方針

2021 年度は、2020 年度の活動を踏襲し研究会活動を進めて行く。

コロナ禍は続くが、このような状況下においても、IT、セキュリティに係る研究テーマの対象範囲を広く動向調査し、俯瞰的に捉えて課題等を整理して情報セキュリティ監査に役立てる。

- 1) 各メンバーがトピックス、現在あるいは今後着目する調査／研究内容、などを持ち寄り、ITおよびセキュリティについて現状および動向を俯瞰的に把握する活動をする。
- 2) 課題等を整理して、各メンバーの得意分野、興味を持つ「個別の研究テーマ」を研究する。
- 3) 各メンバーがお互いの考え方を尊重することをベースとするコミュニケーションを図り、全員参加型の活動を目指す。

さらには、次の内容等を考慮して活動を進める。

- ・各業界、諸団体、専門分野等のそれぞれをセグメンテーションし、メンバーが分担して調査する。
- ・必要に応じて、知見者（他団体、SAAJ 会員など）にご参加頂き活動レベルの向上を図る。
- ・CSA フォーラムおよび他の研究会との連携を図る。

(3) 具体的な施策

1) 新規メンバー

2021 年度も活動内容に賛同するメンバーを加えて活動を進める。

2) 個別の研究テーマについて

- ・「IT および情報セキュリティ関連の基準、ガイドライン等の発行、改定の動向調査」を行う。
- ・内部統制／IT 統制における情報セキュリティ監査／システム監査について調査し研究する。
- ・セキュリティ事故やサイバー攻撃による、着目すべき重大セキュリティインシデントの経過を調査し、見届けて整理する。
- ・活動を続けながら、さらに「個別の研究テーマ」を検討する。

3) 研究会の開催

- ・原則として月 1 回（平日）、定例研究会を SAAJ 協会事務所でのリアル会議 + Web 会議にて実施する。

[> 目次](#)

4. 3. IT アセスメント研究会・計画

(1) 体制

○主査：松枝憲司

○メンバー：小野修一、桜井由美子、清水恵子、力利則、豊田諭、仲厚吉、成田和弘、野嶽俊一、原善一郎、松尾正行

(2) 2021 年度活動方針

1) IT ガバナンスに関連する事項

- ・ISO38503 (Assessment of the governance of IT) の ISO 化の支援。
- ・ISO38503(IT ガバナンス)の改訂プロジェクトの支援

2) システム監査／管理基準の改訂の準備等

- ・赤本第 3 版等によりシステム管理基準及び IT ガバナンスに関する普及を図っていく。
- ・システム監査・管理基準連絡会議（基準改定に参画した団体を中心に基準の活用を目的に設けた連絡会議であり経済産業省からもオブザーバとして参加）に SAAJ として参加し、次回の基準改訂への準備作業に取り組む。

(3) 研究会の開催

- ・定例研究会は原則月 1 回（ZOOM）であるが、状況に応じて、1) IT ガバナンス関連と 2) システム監査／管理基準の改訂作業を個別に開催する。

[> 目次](#)

4. 4. 個人情報保護監査研究会・計画

(1) 体制

○主査 : 斎藤由紀子

○メンバー : 岡田和也、五味巻二、齊藤茂雄、坂本誠、柴田幸一、田口喜久、仲厚吉、永井孝一、成田佳應、林昭夫、道下健二、村上進司、吉谷尚雄

(2) 2021 年度活動方針

- 1) 2020年6月12日に「個人情報保護法2020」が公布され、2022年6月までに施行予定である。改正施行令・施行規則は2021年3-5月公布予定、改正ガイドラインは2021年7月以降公表予定となっている。加えて、2021年には、行政機関個人情報保護法等と統合し「保護法2021」が成立する計画がある。今後、用語や運用面での解釈に相当の混乱が予想される。そのため、肅々と法令・規範を読み込み、会報への投稿によって解釈を整理していくことが、各メンバーにとってのスキルアップの近道と考えられる。
- 2) 現行のJIS Q15001:2017規格は「保護法2015」より厳格であったが、「保護法2021」において行政機関と民間の個人情報の取扱いの整理がつけられ、「個人の権利尊重」がよりフォーカスされると思われる。JIS Q15001:2017規格改定の方向性を予測しつつ、特定とリスク分析の手法、個人情報保護監査サービスの手順見直しなどを図る。
- 3) ISMS27001、ISO/IEC 27701:2019、ISO/IEC29134など、他マネジメントシステムやフレームワーク、海外の動向について継続的に研究していく。

(3) 具体的な施策と今後の課題

以下のテーマを中心に、メンバーが自身のテーマを持って毎回の定例会にて報告する。

- 1) 個人情報の保護に関する法律（保護法2021）の研究
 - ・基本方針
 - ・個人情報保護法施行令
 - ・個人情報保護法規則
 - ・個人情報保護法ガイドライン
- 2) 欧州一般データ保護規則(GDPR)、CBPRについて研究。
- 3) 他マネジメントシステムとの近接性等についての研究
- 4) プライバシーマーク審査基準の今後
- 5) コロナ禍における審査、監査のありかた
- 6) テレワークにおける安全管理、セキュリティルール
- 7) 「PMS実施ハンドブックV2」様式集ダウンロードサイトの更新

(4) 2021 年度定例会の予定

- ・日程 : 毎月第三火曜日 18:30~20:00
- ・形態 : リモート会議 (+ 茅場町会議室)

[> 目次](#)

4. 5. プロジェクト監査研究会・計画

(1) 体制

2020 年度と同じ体制で活動するとともに、ホームページでのメンバー追加募集は継続する。

体制 : 17 名 (本部 12 名、支部 5 名)

○主査 : 原田憲幸 (理事)

○副主査 : 細川健一 (理事)

○メンバー : [本部] 戸室佳代子 (理事)、結城健一、片山邦彦、森内正美、園田博、田村修、大野勇進、藤田博史、佐藤清隆 / [近畿支部] 杉谷博史 / [中部支部] 加藤智康、原善一郎、栗山孝祐 / [北信越支部] 梶川明美 / 他 (希望者ホームページで追加募集)

- 成功するプロジェクト分科会：[リーダー] 細川健一（理事）、[サブリーダー] 大野勇進、
戸室佳代子（理事）、藤田博史、佐藤清隆、片山邦彦、原田憲幸（理事）、他（希望者）
- ODX(Digital Transformation)分科会：[リーダー]園田博、
森内正美、大野勇進、藤田博史、細川健一（理事）、他（希望者）
- 中部北信越支部分科会：[リーダー] 加藤智康
安井秀樹[中部支部長]、原善一郎[中部]、栗山孝祐[中部]、梶川明美[北信越]、他（希望者）

(2) 2021 年度活動方針

「システム開発を成功させるプロジェクト監査」をテーマに、2020 年度に引き続き、全体会議と3つの分科会で活動する。

1)全体会議での研究会活動：毎月1回開催（第3または第4金曜 19:00～ ZOOMリモート会議

メンバー相互での事例・体験等の発表と意見交換で、プロジェクトマネジメントと監査の知見を高めるとともに、「プロジェクト監査」の普及、出版本の拡販活動を行う。

開催予定日：1/21、2/18、3/18、4/15、5/20、6/17、7/15、8/19、9/16、10/21、11/18、12/16

2)分科会活動：

3つの分科会を各リーダーが主催し、各々の目的に沿って活動するとともに、適宜、全体会議で発表する。

○分科会① 成功するプロジェクト分科会 （ZOOM リモート会議）

「プロジェクトを成功させる工夫」をテーマに、成功事例・失敗事例等を発表し、成功させる鍵について討議し、整理する。

開催予定日（日程変更あり）：1/17、2/14、3/14、4/11、5/16、6/13、7/11、8/22、9/12、
10/17、11/14、12/12

○分科会② DX（Digital Transformation）分科会 （ZOOM リモート会議）

「DX の概念、DX の手法・技術・目的、DX の進展と監査」について討議する。

開催予定日（日程変更あり）：1/21、2/18、3/18、4/15、5/20、6/17、7/15、8/19、9/16、
10/21、11/18、12/16

○分科会③ 中部北信越支部分科会 （ZOOM リモート会議）

「リモートによるプロジェクト監査」をテーマに活動する。

開催予定日（日程変更あり）：1/17、2/14、3/14、4/11、5/16、6/13、7/11、8/22、9/12、
10/17、11/14、12/12

3)プロジェクト監査の普及活動：

○SAAJ ホームページ「プロジェクト監査研究会サイト」での広報

研究会活動の紹介、「プロジェクト監査」の普及、事例・体験の紹介、動画でのセミナー等

○外部講演、内部講演による「プロジェクト監査」の紹介

[>目次](#)

5. 支部・計画

5. 1. 北海道支部・計画

5. 1. 1. 北海道支部体制

- 支部長 : 宮崎 雅年
- 副支部長 : 小林 弘幸
- 会計 : 谷口 泰正
- 研究会担当 : 谷口 浩章、宮崎 雅年 (兼務)
- 広報担当 : 曾根本 育裕
- 監事 : 大館 広之

5. 1. 2. 2021 年度活動方針

(1) 月例研究会実施

月例研究会は、本部より送付される本部月例研究会の DVD を上映して意見交換を行うほか、支部員が持ち回りで講師を務め、1 月から 11 月まで毎月実施する。

(2) 広報

- ・支部活動について対外的な広報、および支部員勧誘を行う。
- ・対外的な広報に関しては、協会のホームページの北海道支部のコーナーのほか、北海道支部の Facebook ページを充実させる。

(3) メーリングリストによる連絡

支部メーリングリストにより、支部員間の連絡および情報交換を行う。

(4) 西日本支部合同研究会への支部員派遣

西日本支部合同研究会へ支部員を派遣し、他支部との交流を図る。

5. 2. 東北支部・計画

5. 2. 1. 東北支部体制

- 支部長 : 横倉 正教
- 副支部長 : 佐藤 雅英
- 会計 : 櫻谷 昭慶
- 研究広報 : 佐藤 雅英(兼務)、後藤 武志、佐々木訓
- 監事 : 館田あゆみ
- 顧問 : 鈴木 実

5. 2. 2. 2021 年度活動方針

(1) 月例研究会及び役員会

- ・定例会を 2 ヶ月に 1 回程度、交流会を 1~2 回程度開催する。(奇数月)
- ・定例会の開催場所は仙台市の他、各県での開催を検討しつつ運営する。
3/13 (土)、5/8 (土)、7/10 (土)、9/11 (土)、11/20 (土)
- ・2022 年度の総会開催に関する役員会を開催する。 11/20 (土) (最終月例会終了後)
- ・ITC みやぎ・SAAJ 東北・JISTA 東北 3 団体合同のワークショップを開催する。(10 月)

(2) 広報活動

- ・各県の IT コーディネータ組織、日本 IT ストラテジスト協会東北支部、OWASP Sendai との連携を図り、当協会、東北支部の広報宣伝活動を強化する。
- ・協会ホームページの支部便りを活用し、特に、東北支部地域へのシステム監査に関する情報の発信を行う。
- ・協会本部と連携し、入会勧誘の宣伝をする。
(IPA の情報処理技術者試験実施日等で、チラシを配布する。)

(3) 会員増強

- ・ I P A の情報処理技術者試験（システム監査技術者）合格者などを対象に会員加入を推進する。

(4) システム監査普及サービスの実施

- ・ 2021 年度は、更に会員がシステム監査を体験できるように、システム監査普及サービス対象企業を募り、事例研究会と共同開催を目指す。

[> 目次](#)

5. 3. 北信越支部・計画

5. 3. 1. 支部体制

- 支部長 : 宮本 茂明 (石川)
- 副支部長 : 梶川 明美 (富山)
- 会計 : 長棟 隆 (富山)
- 監事 : 梶川 明美 (富山)
- 県部会長 : 小嶋 潔 (福井)、福田 和夫 (石川)、梶川明美 (富山)、
風間 一人 (新潟)、長谷部 久夫 (長野)
- 顧問 : 森 広志 (富山)

5. 3. 2. 2021 年度活動方針

支部会員の能力向上と支部の技術基盤向上を目指す。

(1) 会員相互の研鑽によるシステム監査技術の向上

- ・ システム監査・情報セキュリティ監査・システムリスク管理等、会員の担当業務の課題や研究活動に関する様々な情報共有・意見交換により、課題解決への方向性等の気づきの場を設ける。

(2) 本部、他支部との交流による知識、技術力の向上

- ・ 研究会ビデオの貸出し運営 (地域別上映)
- ・ 他支部との合同研究会、交流等の企画推進

(3) プレゼンテーション能力の向上

(4) インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上

(5) 会員増強/システム監査の普及・啓発

- ・ 他団体との支部例会での交流等を通じ会員増強/システム監査の普及・啓発を推進

5. 3. 3. 活動計画

(1) 支部総会、各県例会

例会・研究会現地開催時期については、新型コロナウイルス感染状況をみながら決定していく予定。
当面は、オンライン開催を予定。

- ・ 3 月例会
- ・ 6 月例会
- ・ 9 月例会
- ・ 12 月例会

(2) SAAJ 中部支部・北信越支部・JISTA 中部合同研究会開催

(3) 西日本支部合同研究会参加

(4) その他

- ・ メーリングリスト等を通じた会員の相互交流、情報交換
- ・ 会員増強/システム監査の普及・啓発に関する活動企画

[> 目次](#)

5. 4. 中部支部・計画

5. 4. 1. 支部体制

- 支部長 (理事) : 安井 秀樹 (留任)

- 副支部長（理事）：杉山 重人（留任）
- 副支部長：鈴木 尚（新任）
- 会計担当：加藤 智康（留任）
- 会計監査：鈴木 尚（留任）
- 監事：栗山 孝祐（留任）
- 顧問：久保田 秀男（留任）
- 顧問：大友 俊夫（留任）
- 顧問：田中 勝弘(本部研究会ビデオ管理担当)（留任）

5. 4. 2. 2021 年度活動方針

- (1) 中部支部内会員の継続的な相互研鑽・交流を図る。
- (2) 中部支部以外の地域や団体との情報交流を積極的に展開していく。

5. 4. 3. 活動計画

- (1) 研究会：（奇数月(1月、3月、5月、7月、9月、11月)の土曜日）
 - ・実務面での適用について会員相互間の情報交換などを行なう。
- (2) SAAJ 中部・北信越支部・JISTA 中部支部合同研究会 参加
 - ・主催：北信越支部
- (3) その他
 - ・メーリングリスト等を通じた会員の相互交流、情報提供

[> 目次](#)

5. 5. 近畿支部・計画

5. 5. 1. 支部体制

- (1) 支部役員

○理事（支部長／BCP 研究プロジェクト／IT サービスグループ）	荒町弘
○理事（副支部長／会計／教育サービスグループ）	福本洋一
○理事（副支部長／教育サービスグループ）	荒牧裕一
○担当役員（IT サービスグループ／教育サービスグループ）	是松徹
○担当役員（教育サービスグループ）	山本全
○担当役員（IT サービスグループ）	磯貝あずさ
○担当役員（IT サービスグループ）	近藤博則
○担当役員（システム監査法制化推進プロジェクト）	田淵隆明
○担当役員（システム監査法制化推進プロジェクト）	神尾博
○担当役員（BCP 研究プロジェクト）	松井秀雄
○監事	浦上豊蔵
- (2) 支部参与
 - 吉田博一
- (3) サポーター
 - 三橋潤、松本拓也、植垣雅則、尾浦俊行、金子力造、川端純一、中田和男、吉谷尚雄、阪口博一、伊藤聖子、尾崎正彦、岩崎真明、小河裕一、浜田恒彰、石嶋藤代、魚谷悦己
 - ※サポーターには定例研究会受付など支部の基幹的活動へ少しでも参画いただきます。

5. 5. 2. 2021 年度活動方針

- ・定例研究会、システム監査勉強会を基本として、研究プロジェクト・グループ活動を通じて実践的な研鑽活動を行い、支部活動を充実する。また、支部役員会・サポーター会議の計画的な開催と課題管理等により支部運営のマネジメントを実施する。
- ・定例研究会およびシステム監査勉強会開催においては、オンラインコミュニケーションツールを活用しての開催も併用することで、会員サービスを停滞することなく継続的なサービス提供ができるよう努める。

- ・協会本部のシステム監査活性化プロジェクトの活動に連動して、支部会員の増強に努める。
- ・各活動については事業別の採算状況の可視化を行うことで財務の健全化と事業戦略策定への活用を行い、近畿支部財政状況の改善を目指す。
- ・2022年度は役員改選の年度であるため、支部体制の強化とともに、役員候補者を増やす

5. 5. 3. グループ活動

(1) 教育サービスグループ

- ・主査：荒牧裕一氏 副主査：福本洋一氏、是松徹氏、山本全氏

【目標】

1. 近畿支部会員を中心としたシステム監査人の方々に、システム監査に関連する教育サービスを提供し、システム監査人の知見やスキルの向上に寄与することを目的とする。
2. セミナーを通して、システム監査に関心がある方々および実際に企業内で関与されている方々に、システム監査の知識や体験を修得いただくことを目的とする。

【成果目標】

- ・定例研究会：6回開催（1,3,5,7,9,12月）
- ・システム監査勉強会：4回開催（2,4,6,10月）
- ・セミナー教材・活動報告書（第4四半期に2回）
- ・上記サービス提供にあたっての、運営計画書（TODO管理ツール）

(2) ITサービスグループ

- ・主査：是松徹氏 副主査：近藤博則氏、磯貝あずさ氏、荒町弘氏

【目標】

1. 近畿支部の諸活動の可視化による、活性化支援を目的とする。
2. 具体的には、Webサイト（<http://www.saaik.org/>）とMLの安定運用、サイト（コンテンツ）の充実、メールマガジンの発行を行う。

【成果目標】

- ・Webサイト、MLの安定運用
- ・コンテンツの充実（研究論文・報告書等の会員の成果物の掲載。さらに認知度向上、システム監査普及につながるコンテンツを「IT運用勉強会」等で検討）
- ・メールマガジンの発行（季刊：1月、4月、7月、10月）
- ・本部会報掲載：コラムまたはエッセイ（A4*2枚換算）2本以上
- ・サイトの運用ルール、ガイドラインの継続的改善

5. 5. 4. 研究プロジェクト

(1) システム監査法制化推進プロジェクト

- ・主査：田淵隆明氏 副主査：神尾博氏

【目標】

1. システム監査法制化のロビー活動(ただし各個人の立場で)
2. システム監査法制化以外のIT政策の研究・提言・発信
3. 各自自治体における、システム監査義務化の推進状況の発信

【成果目標】

- ・講演：年1回以上（原則SAAJK。当PT成果の外部講演時は事前/事後に役員会に報告）
- ・論文：年1本以上。なお、本部会報掲載のコラム（A4*2枚程度）3本分を、論文1本換算とする。
- ・活動報告書：年1本以上目標（活動自体は業界団体等に年3回以上目標）

(2) BCP 研究プロジェクト

- ・主査：荒町弘氏 副主査：松井秀雄氏

【目標】

1. 組織におけるBCPに役立つ情報発信を行う。
2. IT-BCPに関する監査基準・ポイントを整理する。

【成果目標】

- ・講演：年1回以上目標（原則SAAJK）
出前型セミナーの実施（顧客依頼に基づき実施する）
- ・研究：テレワークにおけるBCPのベストプラクティスを研究する
- ・情報発信：S A A J本部会報記事掲載（A4*2枚程度を2本以上）
作成支部サイトやSNS等を通じてBCPに役立つ情報を発信する

[>目次](#)

5. 6. 中四国支部・計画

5. 6. 1 役員体制

- 支部長：廣末 浩之
- 副支部長：田川 誠、佐藤 康之
- 会計：本多 美和子
- 監事：福原 博明

5. 6. 2 2021年度活動方針

- (1) 中四国支部会員及び公認システム監査人の継続的な研鑽と情報交換の場を提供する。
- (2) システム監査の普及に努める

中四国地域で唯一のシステム監査人の団体として、システム監査に関する窓口組織となるべく広報活動等によりシステム監査の普及に努める。

5. 6. 3 活動計画

- (1) 例会の開催
 - ・月例研究会のDVD視聴
 - ・九州支部月例会の会員への案内と希望者の参加
 - ・その他、情報交換
- (2) 他支部、他団体との連携
 - ・地域の諸団体との共催によるセミナー開催
 - ・九州支部と連携した月例会への参加
 - ・西日本支部合同研究会の開催方法の検討

[>目次](#)

5. 7. 九州支部・計画

5. 7. 1 役員体制

- 支部長：船津 宏
- 副支部長：荒添 美穂、中溝 統明
- 会計：鶴岡 通
- 監査：下司 正雄
- 事務局：福田 啓二、平山 克己、桐原 光洋、梶屋 博史

5. 7. 2. 2021年度活動計画

- (1) ZOOM月例会を中心に自己啓発・情報発信活動を推進し、機会があればビジネス対応を図る。
- (2) ゆるい集まりという特徴は維持しつつもメリハリをつけた運営を行う。
- (3) 月例会の目途10回（2月、11月を除く）、大分合同セミナー、西日本合同セミナー（中四国支部）に参加する。

[>目次](#)

3. 2021年度 特定非営利活動に係る事業会計 事業予算科目案

2021年1月1日から2021年12月31日まで 特定非営利活動法人日本システム監査人協会

科 目	2020年度		2021年度	備 考
	第19期 予算	実績	第20期 予算	
I 収益の部				
1 受取入金・会費	6,680,000	6,844,000	6,580,000	
受取入金	80,000	64,000	80,000	
受取会費	6,600,000	6,780,000	6,500,000	
2 受取寄附金	500,000	567,000	500,000	
3 事業収益	10,839,000	9,158,460	8,006,000	
普及・啓発、広報事業	0	0	0	
研究・研修事業	5,160,000	2,449,004	4,327,000	月例会、セミナー、研究会等
認定事業	4,800,000	6,352,850	2,800,000	認定料、登録料、更新料
支部事業 (本部助成金)	1,750,000 △871,000	1,217,606 △861,000	1,731,000 △852,000	
4 その他収益	1,000	444,148	1,000	
印税収益	0	441,012	0	
雑収益	1,000	3,136	1,000	受取利息等
当期収益 合計 (A)	18,020,000	17,013,608	15,087,000	
II 費用の部				
1 事業費	12,019,000	5,621,732	9,486,000	
普及・啓発、広報事業	1,970,000	996,090	1,750,000	会報、パンフ、ホームページ等
研究・研修事業	5,499,000	1,578,861	3,463,000	各研究会、セミナー講師料等
認定事業	2,800,000	2,424,545	2,300,000	認定員手当、認定証作成費
支部事業	1,750,000	622,236	1,973,000	
2 管理費	7,218,000	8,011,062	7,148,000	
通信費	170,000	165,979	170,000	
旅費交通費	550,000	438,344	300,000	
消耗品費	270,000	271,724	270,000	
会議費	300,000	245,402	100,000	
事務局手当	3,500,000	4,007,297	3,600,000	
厚生費	6,000	4,805	6,000	
事務所運営費	1,750,000	1,728,427	1,750,000	
ハード・ソフト費用	450,000	569,497	700,000	Web会議・セミナー用ソフト費用等
諸会費	72,000	72,000	72,000	
印税支払	0	327,443	0	
雑費その他	150,000	180,144	180,000	
3 予備費			1,500,000	事務所移転のための予備費
4 減価償却費	300,000	234,595	300,000	
5 租税公課	30,000	3,576	300,000	
当期費用 合計 (B)	19,567,000	13,870,965	18,734,000	
当期収支差額 (A) - (B)	△1,547,000	3,142,643	△3,647,000	
内、当期正味財産増減額		3,412,802		
内、資産購入に伴う収支差額		△270,159		
償却前収支差額	△1,247,000	3,377,239	△3,347,000	

*ハード・ソフト費用等で、10万円以上の支払いとなった場合は、費用でなく資産として計上する。■

[>目次](#)

【参考】第20期（2021年度）役員一覧

		役員	氏名	備考
本部	1	理事	麻生 秀明	
	2	理事	安部 晃生	
	3	理事	大石 正人	
	4	理事	億谷 和彦	
	5	理事	小野 修一	
	6	理事	越野 雅晴	
	7	理事	斉藤 茂雄	
	8	理事	斎藤 由紀子	
	9	理事	坂本 誠	
	10	理事	櫻井 俊裕	
	11	理事	清水 恵子	
	12	理事	竹原 豊和	
	13	理事	館岡 均	
	14	理事	力 利則	
	15	理事	戸室 佳代子	
	16	理事	豊田 諭	
	17	理事	仲 厚吉	
	18	理事	永井 徳人	
	19	理事	中山 孝明	
	20	理事	野田 正勝	
	21	理事	原田 憲幸	
	22	理事	林 昭夫	
	23	理事	福田 敏博	
	24	理事	細川 健一	
	25	理事	松枝 憲司	
	26	理事	松尾 正行	
	27	理事	三谷 慶一郎	
	28	理事	三輪 智哉	
	29	理事	柳田 正	
	30	理事	山口 達也	
北海道	31	理事	宮崎 雅年	
東北	32	理事	横倉 正教	
北信越	33	理事	宮本 茂明	
中部	34	理事	安井 秀樹	
	35	理事	杉山 重人	
近畿	36	理事	荒町 弘	
	37	理事	福本 洋一	
	38	理事	荒牧 裕一	
中四国	39	理事	廣末 浩之	
九州	40	理事	船津 宏	
監事	41	監事	木村 裕一	
	42	監事	大西 智	

> 目次